

2023年度

(令和5年度)

事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

学校法人 桐朋学園

目 次

I 法人の概要

1 基本情報	1
2 建学の精神	1
3 学校法人の沿革	2
4 設置する学校・学部・学科等	3
5 学校・学部・学科等の学生等数の状況	3
6 収容定員充足率	4
7 役員の概要	4
8 評議員の概要	5
9 教職員の概要	6

II 事業の概要

1 主な教育・研究の概要	7
2 中期的な計画について	10
3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況	
(1) 法人	13
(2) 男子部門	15
(3) 女子部門	21
(4) 音楽部門	27
(5) 法人本部	31
4 その他	
(1) 施設設備	32
(2) 学費及び補助金等	33
(3) 入学試験結果	35
(4) 教職員研究研修	37

III 財務の概要

1 決算の概要	
(1) 貸借対照表	39
(2) 資金収支計算書	40
(3) 事業活動収支計算書	42
2 主な収入の推移	
(1) 学生生徒等納付金収入	43
(2) 入学検定料収入	43
(3) 補助金収入	44
3 その他	
(1) 有価証券の状況	46
(2) 借入金の状況	46
(3) 学校債の状況	46
(4) 寄付金の状況	46
(5) 関連当事者との取引の状況	47
4 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応	
(1) 男子部門	47
(2) 女子部門	48
(3) 音楽部門	48

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 桐朋学園

(2) 主たる事務所

住所 〒182-8510 東京都調布市若葉町 1-41-1

電話番号 03-3300-2458

FAX番号 03-3300-2459

ホームページアドレス <https://www.toho-gakuen.com>

2 建学の精神

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、そして同じく仙川、調布及び富山市の計3つのキャンパスを持つ音楽部門の、3つの部門から成り立っています。

男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校（男子）、桐朋高等学校（男子）があります。

女子部門には、桐朋幼稚園、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校普通科、桐朋学園芸術短期大学があります。

音楽部門は、桐朋学園大学と桐朋女子高等学校内に音楽科（共学）を持ち、附属教育機関として全国各地に「子供のための音楽教室」を開いています。そして富山市には、桐朋学園大学院大学と桐朋オーケストラ・アカデミーがあります。

3つの部門に共通している建学の精神は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するというヒューマニズムに立つ、『人間教育』」です。各学校の教育目標は、下記のとおりです。

(1) 男子部門

桐朋学園小学校

「基礎学力を充実する」「心身を鍛える」「情操を培う」

桐朋中学校・桐朋高等学校

『自主』『敬愛』『勤労』を教育目標として、民主的な社会の担い手としてふさわしい自主性と協調性に富む人格の形成」

(2) 女子部門

桐朋幼稚園

「子ども一人ひとりを原点に」

「生きるために必要な根を育てます」

桐朋小学校

「子ども一人ひとりを原点に」

「自分自身の人生の主人公に、そして社会のつくり手となりゆくための根っこを育てる」

桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

「こころの健康 からだの健康」「論理的思考力を鍛え、過程を重視する姿勢を育てる」

桐朋学園芸術短期大学

「現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」

(3) 音楽部門

桐朋学園大学

桐朋学園大学大学院

桐朋女子高等学校音楽科

「自由で豊かな感性を持つ個性ある音楽家の育成」

「音楽教育による社会貢献」

「世界における音楽文化の創造」

桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

「音楽の早期・正規教育 聴音教育による音感やリズム感の育成」

「理論や知識のシステムチックな教育」

「音楽スタイルの理解とその実践」

「個人演奏に加え、合唱・合奏の重視」

桐朋学園大学院大学

「演奏の様式性の獲得」

「感性教育の実践」

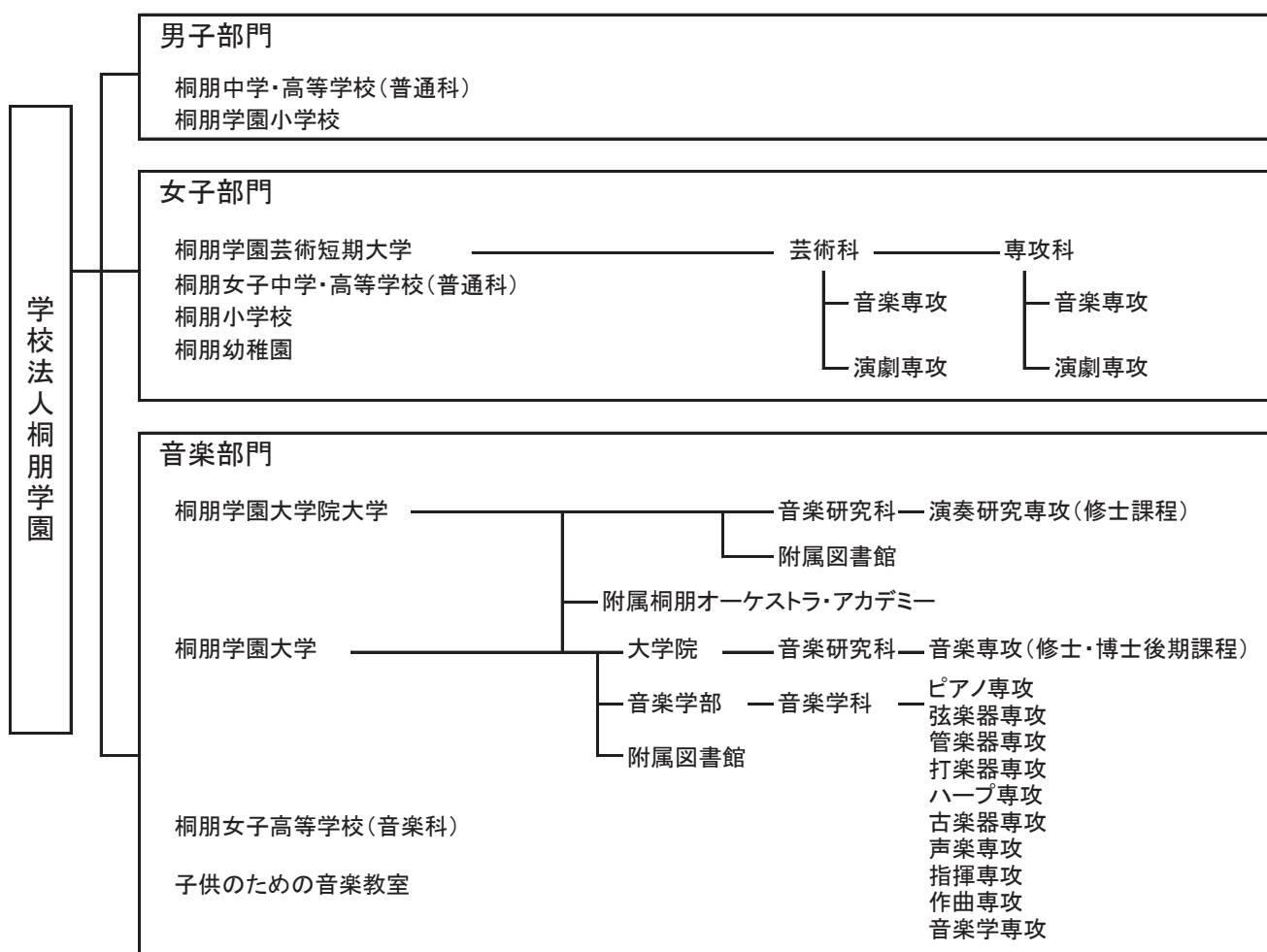
桐朋オーケストラ・アカデミー

「学園設立以来、培ってきた合奏教育をより高度に発展させる実践の場」

3 学校法人の沿革

昭和15年11月7日	財団法人山水育英会認可
昭和16年3月4日	財団法人山水中学校設立認可(国立:第一山水中学校、大阪:第二山水中学校。尚、第二山水中学校は昭和21年12月1日に分離)
昭和16年3月20日	財団法人山水高等女学校設立認可
昭和22年3月31日	財団法人山水中学校・財団法人山水高等女学校解散認可
昭和22年4月1日	財団法人桐朋学園設立、桐朋第一中学校・桐朋第二中学校設置認可
昭和23年3月10日	桐朋高等学校・桐朋女子高等学校設置認可。 桐朋第一中学校を桐朋中学校に、桐朋第二中学校は女子中学校に名称変更
昭和23年10月1日	子供のための音楽教室設置(於市ヶ谷家政学院)
昭和26年3月5日	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更認可(昭和26年1月29日東京都より認可)
昭和27年3月20日	桐朋女子高等学校音楽科増設認可
昭和29年12月1日	桐朋小学校・桐朋幼稚園設置認可
昭和30年2月1日	桐朋学園短期大学音楽科設置認可
昭和33年11月12日	桐朋学園小学校設置認可
昭和36年3月31日	桐朋学園大学音楽学部(演奏学科・作曲理論学科)設置認可
昭和38年3月30日	桐朋学園短期大学音楽科廃止認可
昭和39年1月25日	桐朋学園大学短期大学部文科・音楽科設置認可
昭和41年1月25日	桐朋学園大学短期大学部芸術科(音楽専攻・演劇専攻)設置認可
昭和41年12月26日	桐朋学園大学音楽学部学生入学定員変更受理
昭和42年1月18日	桐朋学園大学短期大学部学生入学定員変更受理
昭和42年12月28日	桐朋学園大学短期大学部専攻科演劇専攻設置受理
昭和43年3月30日	桐朋学園大学短期大学部音楽科廃止認可
平成5年12月21日	桐朋学園大学短期大学部専攻科音楽専攻・地域文化研究専攻設置受理
平成7年9月1日	桐朋学園大学音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー設置
平成10年12月22日	桐朋学園大学院大学音楽研究科演奏研究専攻設置認可
平成11年7月28日	桐朋学園大学短期大学部の期間を付した入学定員の廃止に伴う収容定員の増加認可
平成16年3月31日	桐朋学園大学短期大学部を桐朋学園芸術短期大学に名称変更受理
平成16年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成17年4月28日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科設置受理
平成17年7月29日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科収容定員変更認可
平成17年9月27日	桐朋学園芸術短期大学文科廃止受理
平成17年12月1日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻設置受理
平成18年3月30日	桐朋学園芸術短期大学専攻科地域文化研究専攻廃止受理
平成24年5月1日	桐朋学園大学音楽学部演奏学科、作曲理論学科廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成26年3月31日	桐朋学園芸術短期大学専攻科ステージ・クリエイト専攻廃止受理
平成27年8月31日	桐朋学園大学音楽学部音楽学科定員変更認可
平成28年8月31日	桐朋学園大学大学院音楽研究科設置認可

4 設置する学校・学部・学科等



5 学校・学部・学科等の学生等数の状況

(2023年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	収容定員	現員数
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	10	6	6	5	5	20	10
桐朋学園大学	大学院							
	音楽研究科修士課程	45	56	55	47	45	90	115
	音楽研究科博士後期課程	3	11	11	5	5	9	13
	音楽学部 音楽学科	180	169	168	161	138	720	621
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	120	98	94	94	90	240	206
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	350	481	478	408	334	1,050	949
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	350	190	190	190	170	1,050	485
	音楽科	100	59	59	58	58	300	160
桐朋中学校		300	1,044	880	430	258	900	787
桐朋女子中学校		300	369	271	238	162	900	477
桐朋学園小学校		80	708	603	123	72	480	427
桐朋小学校		80	614	471	105	72	480	431
桐朋幼稚園		26	63	62	30	26	80	78
総計		1,944	3,868	3,348	1,894	1,435	6,319	4,759

6 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名等	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻 修士課程	1.00	0.95	0.85	0.50	0.60
桐朋学園大学	大学院 音楽研究科	1.42	1.53	1.38	1.29	1.18
	音楽学部 音楽学科	0.92	0.93	0.88	0.85	0.77
桐朋学園芸術短期大学	芸術科	1.01	0.97	0.89	0.85	0.71
桐朋高等学校	全日制課程 普通科	0.91	0.90	0.90	0.90	0.90
桐朋女子高等学校	全日制課程 普通科	0.48	0.46	0.47	0.46	0.47
	音楽科	0.54	0.53	0.55	0.53	0.54
桐朋中学校		0.88	0.89	0.89	0.87	0.87
桐朋女子中学校		0.51	0.54	0.53	0.53	0.55
桐朋学園小学校		0.89	0.89	0.89	0.88	0.89
桐朋小学校		0.90	0.90	0.90	0.89	0.90
桐朋幼稚園		0.98	0.98	1.00	0.97	0.96

7 役員の概要

理事：定数 13～15人 現員 13人 監事：定数2～4人 現員 2人

(2024年3月31日現在)

	氏名	就任年月日 (直近重任日)	常勤・非常勤 の別	主な現職等
* 理事	河原 勇人	2010. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	原口 大助	2021. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 理事	今野 淳一	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋女子中学・高等学校長
* 理事	辰巳 明子	2022. 4. 1	常勤	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 理事	鈴木 正義	2017. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 理事	中野 浄	2023. 4. 1	常勤	桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校教諭
* 理事	長瀬 浩平	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	常勤	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
※ 理事	矢島 基美	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	学校法人上智学院理事、上智大学特任教授
※ 理事	薄井 紀子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	東京慈恵会医科大学客員教授
※ 理事	梅津 時比古	2013. 4. 1 (2023. 4. 1)	非常勤	桐朋学園大学音楽学部特命教授 前桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
※ 理事	関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	非常勤	前保隣教育財団理事、前保善高等学校校長
※ 理事	片岡 哲郎	2021. 4. 1	非常勤	(仮称)開智所沢小学校開室準備室長・理事長補佐 前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
※ 理事	津田 伸子	2022. 4. 1	非常勤	(有)サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
※ 監事	伊藤 昌毅	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	非常勤	弁護士
※ 監事	関口 恭三	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	非常勤	公認会計士

・業務執行・非業務執行の別…*が業務執行理事

・責任限定契約の内容の概要

本法人は、私立学校法第44条の2で準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定により、上記※の役員との間に、同法第44条の2の役員の責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、寄附行為であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額としております。

・補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

締結の事実はありません。

8 評議員の概要

定数 34～37人 * は理事兼任者13人
現員 34人

(2024年3月31日現在)

氏 名	就任年月日 (直近重任日)	主な現職等
後藤 恭子	2018. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園小学校教諭
久保田 顕二	2023. 5. 31	桐朋中学・高等学校教諭
小野島 正道	2020. 4. 1	桐朋中学・高等学校教諭
土舘 智子	2021. 4. 1 (2023. 4. 1)	桐朋学園男子部門事務職員
佐久間 彩子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋小学校教諭
吉川 陽大	2023. 4. 1	桐朋女子中学・高等学校教諭
永井 由比	2022. 4. 1	桐朋学園芸術短期大学教授
進藤 寛	2022. 4. 1	桐朋学園女子部門事務職員
合田 香	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学専任講師
中井 恒仁	2020. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学教授
沼野 雄司	2022. 4. 1	桐朋学園大学教授
鶴岡 純子	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園音楽部門事務職員
津澤 絵理	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園法人本部事務職員
生江 隆之	2013. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋中学・高等学校同窓会長
千葉 裕子	2023. 6. 28	桐朋女子中学・高等学校同窓会長
二宮 和子	2010. 4. 20 (2022. 4. 1)	桐朋学園音楽部門同窓会長
* 原口 大助	2021. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 今野 淳一	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋女子中学・高等学校長
* 辰巳 明子	2022. 4. 1	桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
* 鈴木 正義	2017. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋中学校・桐朋高等学校教諭
* 中野 浄	2023. 4. 1	桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校教諭
* 長瀬 浩平	2019. 4. 1 (2022. 4. 1)	桐朋学園大学教授、上智大学非常勤講師
* 河原 勇人	2010. 4. 1 (2022. 4. 1)	理事長、元桐朋女子中学・高等学校長
* 関口 榮司	2018. 4. 1 (2021. 4. 1)	前保隣教育財団理事、前保善高等学校長
* 片岡 哲郎	2021. 4. 1	(仮称)開智所沢小学校開室準備室長・理事長補佐、前桐朋学園小学校長・桐朋中学・高等学校長
* 津田 伸子	2022. 4. 1	(有)サイテック・コミュニケーションズ代表取締役
* 矢島 基美	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	学校法人上智学院理事、上智大学特任教授
* 薄井 紀子	2016. 4. 1 (2022. 4. 1)	東京慈恵会医科大学客員教授
* 梅津 時比古	2013. 4. 1 (2023. 4. 1)	桐朋学園大学音楽学部特命教授、前桐朋学園大学・桐朋学園大学院大学長
本多 俊毅	2021. 7. 31 (2022. 4. 1)	桐朋中学・高等学校PTA会長、一橋大学大学院教授
斉井 尚和	2022. 5. 25	桐朋女子中学・高等学校PTA会長、銀座西勢企業株式会社代表取締役
木下 晶	2017. 4. 1 (2023. 4. 1)	富山県芸術文化協会参議
井上 淳子	2021. 4. 1	井上学園理事長、鶏鳴幼稚園園長
首藤 波津子	2017. 4. 1 (2023. 4. 1)	スポーツネットワークジャパン理事長

9 教職員の概要

(2024年5月1日現在)

部門	区分 学校名	本務		兼務	
		教員	職員	教員	職員
男子部門	桐朋高等学校	47	10	10	15
	桐朋中学校	36	6	19	8
	桐朋学園小学校	23	0	4	8
	計	106	* 1 16	33	31
	平均年齢	44. 1	38. 7	46. 1	48. 6
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	20	7	128	3
	桐朋女子高等学校普通科	41	14	42	16
	桐朋女子中学校	30	2	35	10
	桐朋小学校	23	2	10	17
	桐朋幼稚園	5	0	1	7
	計	* 2 119	25	216	53
	平均年齢	46. 7	47. 1	51. 9	52. 3
音楽部門	桐朋学園大学院大学	5	4	4	0
	桐朋学園大学・大学院	42	20	418	41
	桐朋女子高等学校音楽科	9	6	20	0
	桐朋オーケストラ・アカデミー	0	0	0	2
	子供のための音楽教室	0	0	370	9
	計	56	30	* 3 812	52
	平均年齢	54. 4	44. 9	48. 4	46. 7
法人本部			3		1
	平均年齢		53. 7		29. 0
総計		281	74	1, 061	137

* 1 外国語指導助手(ALT)を含む。

* 2 特任教授、代替教員を含む。

* 3 非常勤講師の他、嘱託演奏員、音楽教室研究員を含む。

Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

桐朋学園大学院大学音楽研究科、桐朋学園大学音楽学部音楽学科及び大学院音楽研究科並びに桐朋学園芸術短期大学芸術科のポリシーは、以下の通りです。

(1) 桐朋学園大学院大学音楽研究科

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

- ・音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に貢献することができる能力を身につけた学生
- ・音楽芸術の分野で真のリーダーになれるよう研鑽を積み、世界の音楽文化に多大な貢献ができる能力を身につけた学生

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

- ・桐朋学園大学院大学のカリキュラム（教育課程）は、学生各個の主体的な研究活動を活かしつつ、個々に専攻する楽器について、より高度な演奏技能を修得するとともに、作品創作研究を含む「重奏研究」「オーケストラとの協演によるコンチェルト実習」など、大学学部卒業後の研究にふさわしい多彩な内容となっている。とりわけ「重奏研究」においては、学生同士のみならず、「指導教員との共演」による実技研究を特徴としており、多様な演奏様式と表現法が学修することができる。また、「作品分析」などの講座系の授業も実習系の科目に深く関連させながら、厳選されたプログラムによって、学生各個の主体的研究が効果的に行われるように編成されている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

○桐朋学園大学院大学が求める学生像

桐朋学園大学院大学は、芸術行為・音楽実践の原点に立ち返り「演奏の様式性の獲得」と「感性教育の実践」を建学の精神とし、将来「音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家として、国際的に活躍することのできる者」を学生として受け入れている。

○入試の方法

桐朋学園大学院大学の建学の精神・教育目的を理解し、桐朋学園大学院大学における研究に必要な音楽的能力を有する者を、演奏実技試験及び研究計画書に基づく面接によって選抜している。

○入試課題

桐朋学園大学院大学は、音楽表現の無限の多様性を感受し、表現することのできる教養ある音楽家を育成し、国内はもとより、国際的にも活躍する人材の輩出を目指している。入学試験においては、顕在的、潜在的能力を有する者を「技術の到達度」、「表現力」、「感性」、「個性」などの観点を主眼としつつ、実技の能力のみに偏らず、大学院での具体的な研究計画を提出させ、総合的に桐朋学園大学院大学に受け入れるべき学生かどうかを判定している。

(2) 桐朋学園大学音楽学部音楽学科

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定されます。

I 専門分野を究めるための表現・意欲の分野

- ・音楽の伝統文化を継承しながら、実践的でレベルの高い個性ある表現力を有している
- ・専門分野を主体的に学び続ける力を持っている

II 専門を支える基礎力としての知識・技能の分野

- ・音楽家として必要な理論・知識・技能を有している
- ・耳と感性の訓練により、自身の音を聴き、よいものを探求して見つけ出す能力を持っている

III 柔軟で汎用的な視点を持つための理解・判断の分野

- ・多様な文化的背景をもつ人びととの相互理解をはかり、他者とのコミュニケーションに高い能力を発揮することができる
- ・今日的な課題について多角的な視点から見つめ、適切な判断ができる

IV 専門の枠を超えて新しい音楽文化を創造するための関心・創造的思考の分野

- ・個人の能力を生かして、他者とともに音楽をつくり、みずからの能力もさらに広げていくことができる
- ・幅広い音楽文化を学び、音楽表現の可能性を広げることができる

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

ディプロマ・ポリシーに掲げた4分野の能力を習得するため、3群の科目群を用意し、必修部分と選択部分を設定する。詳しくは、以下に掲載している。

<https://www.tohomusic.ac.jp/college/profile/curriculum.html>

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

- ・音楽表現に対する能力や意欲を有し、自己の目標を持っている者
- ・音楽文化に関する知識と技量を習得し、社会の発展に貢献する意思のある者
- ・音楽文化の領域を学ぶために必要な理解力・構想力を持っている者

(3) 桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

音楽実践に不可欠な高度な能力を養い、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

修士課程は音楽専攻のもとにピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5コースを置き、専攻としてのカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。

大学院音楽研究科は、音楽実践に不可欠な高度な能力を習得し、自立した音楽活動を行うにあたって必要な能力を養うことを目的とする。その目的のために、各コースの特質に適合した、以下の教育課程を編成している。修士課程は2年以上の在学期間に、コースごとに開設される実技あるいは実習・演習等を履修し、また、学術的研究を支える関連科目を所定の範囲で履修しなければならない。学位審査は、修了演奏および研究レポートの審査によって行われ、合格者は修士（音楽）の学位を授与される。

〈ピアノコース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な技術と豊かな芸術性を持ったピアニストを育成する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスンも多く用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈弦楽器コース〉

学士教育をさらに発展させながら、より高度なレベルで演奏家としての能力を向上させる。そのために必要な実践的、理論的な専門性を持った研究を展開する。個人レッスンやアンサンブルにおけるグループごとの個別レッスン等も用意し、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈声楽コース〉

学士教育をさらに発展させながら、オペラ研究分野、歌曲研究分野を置き、高度な専門性を有した研究を実施するとともに、豊かな芸術性を育む。各自の研究分野について豊かな演奏実践を経験させるとともに、総合演習などの授業と合わせて、芸術的感性と論理的な知性を深め、専門性の高い音楽家への道を導く。

〈作曲コース〉

学士教育をさらに発展させながら、高度な作曲法の体得と現代を含む作曲家の作品の緻密な分析を展開し創作を発展に導く。作品発表も積極的にを行い実践においても更なる向上を目指す。

〈音楽学コース〉

学士教育をさらに発展させながら、現代にふさわしい多面的な視点と精緻な実証性を備えた研究を展開する。国際的な成果の達成に向けて、外国語及び日本語文献の精読を徹底するとともに、豊富な発表機会を設け、音楽大学ならではの芸術的感性と学者としての高度な論理性を両立させた専門性の高い音楽学者の道へと導く。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院修士課程は、高度に専門的かつ広汎な視野に立ち、音楽についての学識と技術をもった音楽の実践や教育を行う人材の養成を目的としている。この教育理念に基づき、音楽に関する見識、技術を有し、なおかつ幅広い視野から知的な関心や柔軟な感性を育むことのできる人材を求めている。

(4) 桐朋学園大学大学院音楽研究科博士後期課程

①ディプロマ・ポリシー「修了認定・学位授与の方針」

修士課程等で修得した能力を基盤としながら、極めて高度な知識と卓越した技能を獲得し、音楽に関する学術的研究を自立的に行う能力、および音楽教育を発展させる指導者になり得る素養を身につけ、博士後期課程の修了要件を満たした者に博士の学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

専門領域における極めて高度な知識、教養、見識及び卓越した技能を持って研究及び演奏を行う能力を獲得する。修了後には高等教育機関で教育や研究に従事するために必要な問題発見能力、課題解決能力、他の専門領域や他者の知見を理解しクリティカルに検証する能力を習得する。また、教育研究を持続的に推進する人材として、社会や文化に対する広い視野と高い見識を培う。

上記ポリシーの実現のために、ピアノ、弦楽器、声楽、作曲、音楽学の5つの研究領域を置き、各自の専門とする領域について学術的研究を行う。年次ごとの研究指導のもとで作成する研究計画書に基づいて研究を計画的に実施するとともに、その成果を逐次まとめ、発表する。音楽作品、演奏様式等についての知識を深めるとともに、音楽研究に必要な様々な方法論を取得し、自らの研究の礎とする。また、討論や研究発表などを通じて積極的に問題提起を行い、研究成果のプレゼンテーションの技術も高めていく。最終的には、演奏を通じた実践的研究と学術的研究が一体化した統合的な研究を目指し、その成果として研究演奏及び博士論文の執筆と公表を義務づけている。

③アドミッション・ポリシー「入学者受入れの方針」

大学院博士後期課程は、専門領域、また広く音楽芸術全般に関する専門的な知識や技能を修得しており、さらに自らの研究課題に基づいて高度な研究を実施するための資質や意欲があり、実践、教育等において広く国際的な視野に立って音楽芸術を深く考究する資質や意欲がある人材を求めている。

(5) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・〈楽譜を読み取る力〉
音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し、楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。
- ・〈演奏表現〉
個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。
- ・〈アンサンブル〉
古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・ 専門実技、音楽理論においての知識と基礎的な理解力を有する者。（知識・理解）
- ・ 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。（思考・判断）
- ・ 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- ・ 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。（態度）
- ・ プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。（技能・表現）

(6) 桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

①ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

②カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

芸術科演劇専攻は幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- ・〈戯曲を読み解く力〉
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。
- ・〈身体訓練〉
声を含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。
- ・〈アンサンブル〉
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

③アドミッション・ポリシー「入学受入れの方針」

- ・ 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。（知識・理解）
- ・ 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。（思考・判断）
- ・ 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。（関心・意欲）
- ・ 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。（態度）
- ・ 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。（技能・表現）

2 中期的な計画について

桐朋学園では、2023年度から始まる5か年の中期的な計画（以下「中期計画」といいます。）を策定しました（2023年3月28日評議員会承認、同日理事会決定）。

桐朋学園は、男子部門・女子部門・音楽部門の3つの部門から構成されています。3つの部門はそれぞれが歩んできた歴史を背景に特色ある教育を展開してきました。ただし目指す教育は、いずれの部門も「人間性豊かで意欲的な、自主的・創造的な人間の育成」であり、これを、中期計画の目標に掲げています。3つの部門は互いに良い影響を及ぼし合って、一つの法人を形成していますが、今後もこの構造を維持しながら、変化の激しい外部環境に柔軟かつ迅速に対応してまいります。

以下に示しましたのは、上記学園全体の目標を実現に導く基本方針となります。

- | | | |
|-----|------|--|
| I | 【教育】 | 教育研究活動の改善及び質の向上を図り、自ら課題を発見し、多様な価値観の混在する社会に主体的に対応できる人間を育成する。 |
| II | 【人事】 | 優秀な教職員を確保して、適正な人事計画のもと教育研究活動に資する人材を育成する。法人内の連携強化のため優秀な人材を活用する。 |
| III | 【施設】 | 施設設備を整備して、教育研究環境の充実と向上を図る。 |
| IV | 【財務】 | 財政基盤の安定化を図るため、必要な学生生徒数を確保するとともに経費の削減に積極的に取り組む。 |
| V | 【組織】 | 部門としてのガバナンス機能をさらに強化するとともに、法人として一定のマネジメント機能が発揮できるようにする。 |

上記の目標及び基本方針を踏まえ、各部門では、それぞれが抱える課題に応じて独自の目標を設定しています。

その進捗状況等の詳細は、「3 事業総括、主な事業計画と進捗状況」（本報告書15頁～31頁）をご覧ください。

○男子部門

学校名	項目	目標
桐朋中学校・高等学校	新教育課程の策定と実施	本校の学習面を中心とした課題の克服 中学生の学習の定着 英語科外国人講師の充実
	教学面における将来構想	少子化に備えた学校規模に関する将来構想の検討と実施
	進学指導の充実	高校生の志望実現に向けた進路指導の充実
	ICT機器の整備と活用	新学習指導要領下での電子情報機器の活用
	研修・行事プログラムの充実	生徒の主体的な行動における質的な向上 国際交流活動のさらなる充実
	安全・安心な学校生活の実現に向けた取組	災害時に限らない日常生活の点検・整備
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
桐朋学園小学校	施設・設備の拡充	タブレット端末を活用できる環境の整備
	グローバル化	外国語教育の拡充と国際理解教育の推進
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保
	安全安心な学校管理	校内の安全管理
	教育環境整備	クラス定員減
事務部(管理運営)	ガバナンス体制の整備	諸規程の改正・整備
	安定した財務基盤の構築	学費改訂案の策定と経常費補助金分析
	施設設備の整備・充実	既存維持管理計画の立案、作成 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新 省エネ計画の立案、作成
	人材育成・人材活用	優秀な教職員の確保 人事配置計画の立案、作成 教職員のスキルアップ

○女子部門

学校名	項目	目標
桐朋学園芸術短期大学	教育の改革と質保証	教学マネジメント体制の構築 適切な学習成果の査定 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の活性化 他大学との連携強化 自己点検評価の充実 情報公開の推進
	学生募集	アドミッション・ポリシーに基づく学生募集 広報活動の強化
	将来構想	短期大学将来構想の策定
桐朋女子中学校・高等学校(普通科)	新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実	女子中高の特性を活かした新教育課程の編成、実施 モットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実
	進学指導の充実	個々人の希望する進路の実現
	ICT機器の活用と危険性の認識	個々人が利用するタブレット端末の活用策の検討 活用上の課題等についての教育・啓発
	海外研修プログラムの充実	世界に触れる経験を一人でも多くの生徒に準備
	危機管理対応の充実	東日本大震災、COVID-19への対応で得た経験・知見の整理と活用
	安定的な収入の確保	入学試験応募者の安定的確保、寄付金サイトの活用
	建築計画	大規模校舎改築計画の立案と実行
	将来構想	少子化に備えた将来構想の立案と実施
	施設・整備の拡充	健康教育の推進、安全対策の徹底及びインターネットによる教育活動の研修推進
桐朋小学校	グローバル化	世界平和や持続可能な未来を考え行動できる「地球市民」の育成
	安定的な収入の確保	応募者の確保
	建築計画	教育理念・教育目標実現のための建築の具体化
	将来構想	少子化に備えた教育内容の見直しと学校規模等の検討
桐朋幼稚園	安定的な収入の確保	応募者の確保
	教育環境整備	保育補助員等人的環境の整備と園庭整備
	建築計画	教育理念・教育目標実現のための建築の具体化
	将来構想	少子化に備えた保育内容の見直しと学校規模等の検討
事務局(管理運営)	安定した財務基盤の構築	経費の削減と予算配分の重点化 自己収入の増加 資産運用状況の改善
	人材育成・人材活用	人事の適正化 事務の効率化と合理化の推進
	施設設備の整備・拡充	施設設備の効率的な維持管理 中長期的な整備計画の策定 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新
	ガバナンス体制の整備	コンプライアンスの徹底と内部チェック機能の構築 災害等緊急時の対応整備 安全衛生管理上の環境整備 セキュリティ対策の充実 省エネルギー、省資源化への取り組み

○音楽部門

学校名	項目	目標
桐朋学園大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応 収容定員充足率の改善
	連携・協力	富山キャンパスとの連携強化 調布市との連携強化 海外の教育機関との連携強化
桐朋学園大学大学院	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	専攻新設適否の検討 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	TAの高校の授業への関わり 調布市との連携強化
桐朋女子高等学校(音楽科)	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教務システムの電算化促進
	生徒確保	学校の魅力発信の強化 Covid-19に起因する状況への対応
	連携・協力	音楽教室との連携強化

○音楽部門

学校名	項目	目標
子供のための音楽教室	教育の改革と質の保証	設立の趣意を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教室運営の点検・改善 Covid-19に起因する状況への対応
	生徒確保	生徒の安定的な確保と収支の改善
	連携・協力	音楽教室の運営状況の把握
桐朋学園大学院大学	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 教育環境の整備 教務システムの電算化の促進 Covid-19に起因する状況への対応 認証評価に向けての対応
	学生確保	志願者増に向けた方策の検討・実施 Covid-19に起因する状況への対応 収容定員充足率の改善
	連携・協力	情報共有の強化 公開講座の充実
桐朋オーケストラ ・アカデミー	教育の改革と質の保証	建学の精神を踏まえ、それを実行できるカリキュラムの構築 Covid-19に起因する状況への対応 効率の良い会議
	学生の安定的な確保	国内外における認知度の向上
	連携・協力	情報共有の強化 地域との連携強化
事務局(管理運営)	ガバナンス体制の整備	グループ・リーダー制度の点検 Covid-19に起因する状況への対応
	安定した経営基盤の構築	収支バランスの適正化 効果的な広報活動の強化
	施設設備の整備・充実	教育研究環境の充実及び安全で快適な学習環境の実現
	人材育成・人材活用	教職員の採用計画の策定 職員の資質・能力向上 多様かつ効率的な事務システムの導入

○法人本部

	項目	目標
法人全体	ガバナンス体制の整備	最適な管理運営体制の構築
	安定した経営基盤の確保	広報活性化とブランドイメージ模索 寄付金募集のあり方の検討
	施設設備の整備・充実	省エネへの支援
法人本部	ガバナンス体制の整備	理事会・評議員会の活性化 法人諸規程の点検・整備 法人本部諸資料の整備
	安定した経営基盤の確保	経費の見直しと効率化
	施設設備の整備・充実	ボロニア館等の改修等
	人材育成・人材活用	職務遂行能力の向上

3 事業総括、主な事業計画及び進捗状況

(1) 法人

①はじめに― 桐朋学園の構成など

桐朋学園は、国立市にある男子部門、調布市仙川にある女子部門、同じく仙川を中心に調布市と富山市に展開する音楽部門の、三部門から成っています。男子部門には、桐朋学園小学校（共学）、桐朋中学校、桐朋高等学校があり、2,163名の児童・生徒が学んでいます。女子部門には、桐朋幼稚園（共学）、桐朋小学校（共学）、桐朋女子中学校、桐朋女子高等学校（普通科）、桐朋学園芸術短期大学があり、1,677名の園児・児童・生徒・学生が学んでいます。そして音楽部門は、桐朋女子高等学校（音楽科・共学）と桐朋学園大学音楽学部並びに大学院が仙川と調布に、桐朋学園大学院大学が富山市にあって、919名の生徒・学生が学んでいます。別に附属教育機関として子供のための音楽教室（全国）と桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）があり、一貫した音楽教育の体系を形成しています。以上のように三つの部門はそれぞれにいくつかの学校組織を持ち、独自の歴史と教育の特色を持っています。

桐朋学園は、内部的には部門制を採っており、各部門は自らの教育と運営等にかんがりの裁量権を有し、主体性と責任を持って部門運営に当たっています。そのことが部門間相互理解の上に、学園全体に連携と協力、そして大きな活力を生み出しています。部門ごとに教育に特色がありますが、共通するのは、一人ひとりの人間性を大切にし、こころ豊かで意欲ある、自主的・創造的な人間の育成を目指しているところです。学校法人桐朋学園の法人本部は仙川にあり、法人運営と学園事務に当たっています。

②外部状況の変化と本法人の課題と取り組み

学校法人を取り巻く社会環境の変化は著しく、この社会変革にどのように対応して行くのか、桐朋学園もいままさに重要な局面を迎えています。

科学技術の急速な進歩、深刻さを増す気候変動問題や地球環境の悪化、長期化する国際紛争など、解決すべきグローバルな課題も山積しています。解決の糸口を見つけようにも、幾つもの国際会議が機能不全に陥っています。そうした中我が国では新型コロナウイルス禍をきっかけにICT（情報通信技術）の浸透が教育の未来を大きく変え始めています。

来るべき社会では、ICT教育の充実を背景に、文系・理系を問わず教科横断的に学び、「自ら問いを立て課題を探究し解決する力」を育むことが求められています。すべての人が数理・データサイエンスなど広い素養を持ち、世の中の課題を解決していけるのは大切なことですが、それだけでなく、理数系に偏ることなく、人文・社会科学等も含めた広い学びの中で、問題を発見し探究する力の育成がいま求められています。そのために世界ではSTEAM教育に注目が集まっています。STEAMは、科学、技術、工学、アート、数学を合わせた教科横断的の学びで、文系・理系を問わず、とりわけ「A」のアートまたはリベラルアーツの学びが欠くことのできない要素として重視されています。

社会がこれほどまでに変化しているのですから、その中の人々も、私たち自らの価値観や学校経営の在り方、また、教育の方法までもが変わるのは当然で、それは、今までのやり方を踏襲し、或いはもっと力を注いで頑張ればなんとかなるのかと言えば、そのようなレベルではもはやなく、当然必要な対策が講じられなければなりません。

最近、専門を異にする大学の合併や大学間の協定の締結が話題になっています。イノベーションは多様な視点があってこそ生まれます。それが期待されての合併や協力です。イノベーション人材育成とでも言うべき教育も見直されています。男女の別、国籍を問わずさまざまな人材の協働が必要です。こうした高度な目標の達成を目指す上で、活動を深める重要な要素が多様性です。

そこで思います。桐朋学園が目指してきた「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するヒューマニズムに立つ人間教育」は、このような世界の状況を傍観するのではなく、変革しようと主体的に取り組み、多様な価値観を尊重し、対立ではなく、協働への道を模索し、平等な社会を実現する人を育てようとするものであったと。

社会が大きく変わろうとするときには、教育にも大きな変化が求められます。では、桐朋教育はどう変わるのか、或いはどう変わらねばならないのでしょうか。

私ども桐朋学園も、その存在意義を追究し、時代に合ったやり方でそれを究めて行くことが必要です。私どもの桐朋学園の教育がなぜこの時代に必要か。それを私たち自身が理解し、また社会に対して常に喧伝し、それが認知され続ける状態を創って行くことが、今後私どもにとって変わらずに必要なことだと思っています。

今ある桐朋らしさを基盤としつつ、この先の社会でも桐朋教育の新たな価値が求められ続けるような、各部門それぞれの新しい桐朋らしさの創造を期待し、臨みたいと思っています。

こうした外部状況の中、「教育の質の向上」と「健全な財務運営」は私どもが常に追求すべき課題です。いちばん大切なことは、いかに魅力的な教育を行うかであり、そのための財務的な裏付けを整えていくことが欠かせないからです。また、若い人たちが現代社会が重視する多様性を受けとめ、お互いを尊重しハンディキャップをも含めてお互いの個性を認め合い、目の前の弱者に対し何ができるかを自らに問い、できることを積極的に働きかけて行けることこそ、私どもが大事にしなければならぬ教育です。

以下、2023年度の各部門の主な事業に触れますが、詳細は各部門の報告を参照してください。

③男子部門の主な事業

高校での新学習指導要領による新課程導入二年目となり、コロナ対策に一定の区切りを迎えた2023年度、教育内容を従来の形に戻しつつ、コロナ禍での指導を再評価し、今後の指導の検討を進めました。ICT教育環境の整備では、昨年に引き続き無線LAN工事も進み、中3高1ではタブレット端末を活用した授業が実施できるようになりました。設置された新たな部署・広報部が広報を一括して担当して一年、懸案であった役職者の兼職が解消されました。また、熱中症対策の一環として、引き続き体育館の空調設備の設置が進み、環境の改善が図られました。小学校では、進めてきたクラス定員の適正化の検討を終え、運用に向けて準備が始まりました。

④女子部門の主な事業

建築準備委員会が進めてきた仙川校地のすべての校舎改築・改修の計画は、初等部から短大、事務局まですべての部署の合意形成を図りながら活動しましたが、この一年は目に見える形での変化はありませんでした。短大は、懸案の「教学マネジメント委員会」が発足し、公表している三つのポリシーに沿って目標通りの教育達成のため組織的な取り組みの検討に入りました。短大の将来構想について理事会に報告し、年度末、音楽と両部門代表による協議が正式にスタートしました。

中高では探究学習プログラム「T-Project」が高1を対象に2022年度始動し、検証と修正を加えながらの二年目を終えました。24年度からは中3を含むBブロック2学年での取り組みとなります。初等部の外国語・国際理解教育・多文化共生教育を柱とする「地球市民の時間」学習が内容も充実し指導四年が経過しました。

⑤音楽部門の主な事業

七年に一度の認証評価受審の年度でした。そのために自己点検・自己評価の充実を図り、周到に準備を進めました。「自己点検評価書」を作成・提出して臨みましたが、評価機構からは一点の指摘事項・指導事項もなく、桐朋学園大学院大及び桐朋学園大の認証評価対応は充実し終わりました。音楽部門のルーツとも言える「子供のための音楽教室」の運営は、コロナ禍以前への経営回復が課題でしたが未だ苦戦は続き、年度末、改善を図るためのほぼすべての教室代表者によるシンポジウムを開催しました。会の報告の纏めが待たれます。志願者の減少が顕在化し、この間検討してきた対策の早期実施が課題です。

⑥法人全体として

法人及び部門の経営に豊富な識見と経験を以て尽力くださった男子部門の鈴木正義理事、女子部門の中野浄理事が揃って2023年度末をもって退任されました。まずもってご尽力に心より御礼申し上げます。

私どもにとって2023年度は、25年度4月の改正私立学校法施行に合わせて、それまでに対応を済ませておかねばならない桐朋学園寄附行為の変更、その他、内部統制、内部監査に関する規程の理事会決定の準備など、関連規程の作成と既存規程の変更を検討する一年でした。寄附行為を変更するため、具体的には改正法下の理事会、評議員会、監査制度等についての変更、法人運営審議会での審議・協議に多くの時間を割きました。加えて、20年度より実施してきた中期計画の問題点を改善すべく、抜本的に取り組んだ一年で、五年間固定型の形式で中期計画を作成し実施する方向で理事会の承認を得、中期計画の充実とガバナンス体制の整備に細心の注意を払ってきました。

(学校法人桐朋学園 理事長 河原 勇人)

(2) 男子部門

① 2023年度の事業の概要

コロナ禍も一区切りとなった2023年度は、インフルエンザ等による学級閉鎖の対応に追われることもありました。日常の学校生活はもちろん、宿泊行事をはじめすべての行事をほぼ旧来に近い形で行うことができました。例えば、小学6年生の臨海学校では4年ぶりに海での遠泳を、また、5年生の林間学校でも同じく4年ぶりに東天狗岳登山を実施し、児童は自らの成長を実感する機会となりましたし、中高の桐朋祭は、こちらも4年ぶりに飲食を扱う団体が復活して、多くの来場者を迎え活気溢れる中、参加団体・委員の生徒は充実した活動を行うことができました。

2023年度の男子部門事業計画についてですが、コロナも一区切りとなり、教育内容を本来の形へと戻しつつ、コロナでの経験を今後はどう活かすか、検討しながら取り組んでまいりました。そうした中、十分に進められなかったものがさまざまあり、厳しい評価を下しています。例えば、中高の「中学生の学習の定着」では、学習状況の分析は学内の試験に加え、ベネッセによる学力推移調査に参加し分析・検証の機会には設けていますが、その検証をもとに、現状行っている学習以外に今後どのような取り組みを行えるのか、行うべきか、具体的な検討の必要性を強く認識しています。関連する内容として、2023年度は、担任による生徒面談の機会、時間を保障するとともに面談内容の見直しなどに取り組みましたが、今後、よりいっそうの取り組みを進めてまいります。「英語科外国人講師の専任採用に向けた検討」では、2022年度より直接雇用で講師としてご指導いただいている方はいますが、次のステップである専任採用に向けた条件等の整備が十分に進められませんでした。また、小学校の「入学試験応募者の安定的確保」では、志願者の減少は「やや」という範囲となりましたが、近隣地区の私立小などの動向に関し、情報収集をもとに本校としてどう取り組んでいくべきか、十分な検討は進められませんでした。

一方、ある程度進められた内容としては、中高においては「新学習指導要領下での電子情報機器の活用」があり、2023年度に中3・高1でタブレット端末を導入し授業などでの活用を進めております。活用方法のさらなる充実に向け、教職員の環境整備を図るとともに、講習等の実施も進めてまいります。「熱中症等への対策の検討と実施」では、2022年度に引き続き、中高体育館の空調機器の整備を進めすべての体育室に設置することができました。また、残暑の厳しさが増す中、これまで10月1日頃に行っていた中学運動会の実施時期を見直し、2024年度より11月の実施とし、安心して気持ちよく運動会を行える形に改めました。小学校では「クラス定員減」に関し、少子化の進展を踏まえ今後の計画を確定することができました。事務部では「人事計画の立案、作成」において、ICT教育の拡充に応じた職員の取り組み方に関し、他校の事例を知る機会を積極的に増やしそこで得た情報をもとに職員によるサポート体制の検討を進め、併せて業務内容についても一定の整理を行うことができたので、今後の人事計画に活かしてまいります。

児童・生徒の安定的な確保に関してですが、小学校入試では、先にも触れましたとおり、昨年と比べやや減少しましたが、コロナ禍に端を発した私立ブームもあり、この10年で3番目の数ではあります。ただし、今後定員減を進めそれに伴う学費の改定も行いますので、応募者確保に向け、魅力の発信にいっそう努める必要を強く感じております。中高では、2023年度より新設された広報部を中心に広報活動を進めました。中学入試での出願者数は、2月1日は昨年をやや下回りましたが、2月2日は3年前に近い水準まで回復を果たすことができました。出願のしやすさを考慮し出願期間を延長したことがやっと浸透してきた感があります。高校入試の応募者数は、このところ隔年で増減していますが、今年度は増え幅が大きめで2019年度に近い水準まで回復しました。2024年度より東京都が私立高校授業料実質無償化を始めます。今後どのような影響が生じるのか、注視しつつ広報活動に努めたいと考えております。なお、入学者は小中高ともにしっかりと確保することができました。

最後に、2024年度に向けた大学合格状況についてです。4月当初の集計で、卒業した78期生の国公立大や私立大の合格者総数は、平均的かやや少ない数ではあるのですが、合格体験率は68%、現役進学率も55%と、ともにここ10年間で2番目に良い数字となっています。この理由として、自分の志望を貫き、絞った形での受験をした生徒が多かったことがあります。東大・東工大・一橋大・京大・国公立医学部の現役合格者総数は26名で、ここ10年の平均をやや下回る数となりました。この学年は、最難関の大学にチャレンジする生徒はここ数年との比較で多かったのですが、合格者が伸びなかったことがあります。生徒の希望を叶える進路指導の工夫にいっそう取り組んでまいりたいと考えております。

②2023年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋中学校・高等学校

事業名 学習面を中心とした課題の克服

概要

- ①新カリ構造図の策定と実施ならびに検証を行う。
- ②総合的な探求の時間ならびにLHRの在り方について検討し実施する。

進捗状況等

- ①今年度末で新教育課程は高校2年生まで完成したが、理系生徒の大学共通テストにおける社会科目で地理歴史科目を選択することを希望する生徒が、当初の想定より多かった。本校における教育課程編成がそれに十分対応しているとはいえないことから、そうした生徒に対して補講を実施するなどして対応してきた。また、大学共通テストにおける新教科「情報」の各大学における扱いが見えてきたこともあり、本校新教育課程の中での扱いについて、再検証を開始した。
- ②新教育課程に移行し、高校のLHRの時間を週2時間から週1時間に減じた。当初想定していた通りこの時間不足は否めないが、学年・担任の工夫で滞りなく実施することができた。今年度の経験を踏まえてさらなる検討が必要となっている。

事業名 中学生の学習の定着

概要

- 学習習慣定着に向けた取組ならびに学習に不安を抱えた生徒への新たなサポート体制を検討し、実施する。

進捗状況等

- 具体的なサポート体制案はいくつか出されたが、少子化に伴う学校規模の検討が優先されたため、それらを実践するための人員と財務についての検討にまではいたらなかった。

事業名 英語科外国人講師の充実

概要

- 英語科外国人講師の直接雇用と専任雇用を検討する。

進捗状況等

- 昨年度から英語科外国人講師の直接雇用を開始し、今年度は英語の授業やスピーキングテストにおけるサポートはもちろん、ケンブリッジ大学海外語学研修の事前学習の援助やJETと連携した英語で会話しながら交流する企画に積極的に取り組んだ。一方で、専任雇用についての議論は進まなかった。

事業名 高校生の志望実現に向けた進路指導の充実

概要

- 大学等での研究体験を通じた知的好奇心を高める活動を実施する。

進捗状況等

- コロナウイルス感染症の影響もなくなり、このような進路企画を今年度はいくつか実施することができ、昨年より前進した。具体的には、海外大学に進学した卒業生による講演会、住友商事に勤める卒業生等を招いての講演会（Mirai School）、JAXA相模原キャンパスへの訪問、カシオ計算機株式会社羽村技術センターへの訪問、さらに、昨年に引き続き、女子部門と合同で東京慈恵会医科大学への訪問を行った。また2月には、女子部門と合同で、医師・医学部生との懇談会を、3月には東京地方検察庁への訪問を実施した。対象は高校生のみならず、企画内容によっては中学生の参加も積極的に促した。企画立案を行うための人員体制の構築等については十分に検討できておらず、引き続き模索していく。

事業名 新学習指導要領下での電子情報機器の活用

概要

- 新学習指導要領下でタブレット等の情報機器の利用方法を検討し、使用環境の整備を進める。

進捗状況等

- 現在、タブレット端末が中学3年・高校1年で導入され、少しずつICT機器を活用した授業実践が始まっている。これに伴い、中3～高1のホームルーム教室及び、教科教室に無線LANのアクセスポイントを設置した。タブレット端末については、計画どおり導入され、大きな問題はなく活用されているが、まだ一部の教科の授業での使用にとどまっている。今後はICT機器のより一層の活用を図るため、教職員の利用環境整備や研修が期待されている。中学1年・2年での活用については検討中である。

事業名 生徒の主体的な行動における質的な向上

概要

各行事の意義の再確認とそれに基づく生徒の活動内容を見直し、実施する。

進捗状況等

新型コロナウイルスの5類移行により、あらゆる行事をコロナ前に戻して実施した。たとえば、中学運動会・スポーツ大会は3学年同時での実施となった。縦割りの重要性を再認識し、行事実施に向けた生徒間の取り組み時間の一層の充実を図る。高1の夏期行事では民泊を初めて実施したが、生徒にとっては日常生活と大きく異なる異文化体験を通して非常に多くの事を学ぶことができた。行事を通して生徒が大きく成長できるような経験を得られるよう今後もさらに各行事の内容を検討していきたい。

事業名 国際交流活動のさらなる充実

概要

現行の語学研修・長期留学制度を見直し、新たなプログラム等を検討・実施する。

進捗状況等

2023年度はコロナ禍で途絶えていた「ケンブリッジ大学海外語学研修」を実施することができ、参加した生徒たちにとっては非常に有意義な経験となった。2024年度は「ハロウ校サマースクール」を再開する予定であり、この実施に向けての準備を開始した。

事業名 災害時だけでなく、日常生活に対する点検・整備

概要

- ①熱中症等への対策を検討し実施する。
- ②首都直下型地震等大規模災害へのさらなる対応を検討する。

進捗状況等

- ①今年度の中学運動会については、熱中症対策として当日の気温等により実施種目の削減などの対応が出来るように考えて実施した。また、来年度の中学運動会については、熱中症の危険性を避けるために実施時期を変更することを検討した。昨年度に引き続き、中高体育館の3室に熱中症対策として空調機器を設置した。
- ②すでに設置されている災害救援自販機の機能を確認し、次回の教職員防災訓練にて使い方等の研修を行うことができるよう準備した。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

新たな体制の検討・実施・見直しを行う。

進捗状況等

広報部を立ち上げて稼働し始めたこの一年、コロナ禍を経て受験生側の意識に変化が見られたり、少子化を受けて学校や教育に関わる社会の動きも変わってきてきたりと、様々に従来とは異なる状況が生じている。初年度の活動を振り返ると、おおよそ予定通りの活動はできたが細部には修正の余地も多くあり、二年目に向けての課題となろう。新年度には新しいウェブサイトの運用が始まるので、このための準備を行った。

○桐朋学園小学校

事業名 タブレット端末を活用できる環境の整備

概要

タブレット端末を用いた教育内容を実践し、論理的思考力を育成する。

進捗状況等

学校で購入した78台のiPadを3年生以上の児童が様々な場面で活用した。授業では、国語：語句調べやパンフレット制作、社会：地理や歴史・伝統工芸品などの調べ学習、EC：音読練習、体育：マット運動、理科：電気のはたらきと制御、等。委員会活動では、テレビ放送用の放送原稿づくり、クラブ活動でも、動画を活用したり、制作したりした。

事業名 外国語教育の拡充と国際理解教育の推進

概要

- ①2020年度からの英語科専任化と1年生～6年生までのカリキュラムのさらなる推進と見直しを行う。
- ②国際理解教育の検証と継続。

進捗状況等

- ①2023年度は、高学年のみで行ってきたEC（英語）の授業を1年生から実施した最初の学年が6年生となった。6か年を見通したカリキュラムの見直しを行った。5、6年生で外国人講師を招いての「EC交流会」は予定した3回すべて実施することができた。
- ②一橋大学経済学部在籍のタイ王国出身の留学生、ハンナロン・サウィタさんにお出いただき、12月20日に国際理解教室を実施した。タイの文化や歴史、小学生の日常の様子や日本との関係について話をいただいた。また、3年生でも興味を持って話を聞けると判断し、対象を4年生以上から3年生以上に広げて実施した。

事業名 入学試験応募者の安定的確保

概要

- ①近隣地区の国立・都立・私立小学校の入試動向を分析する。
- ②学内外での広報活動の検証と検討を行う。

進捗状況等

- ①コロナで少子化が加速する中で、都立立川国際小学校が創立2年目となり、また来年度は開智所沢小学校が開校する。入試動向について、ある程度情報を集めることはできたが、今後の様子を分析することは困難であった。来年度以降引き続き注視していきたい。
- ②広報活動として、学内では学校説明会（5回）と校舎見学会（1回）を行った。学校説明会では1家庭の参加人数を3名までとし、複数回の申し込みはご遠慮いただいたため、希望されたご家庭は概ね参加いただける説明会になった。学校説明会は保護者だけが参加し、校舎見学会にお子さんと一緒に来校されたご家族も多かった。学外では、東初協の私学展と中央線沿線合同相談会に参加した。

事業名 校内の安全管理

概要

- ①校門での保護者と外来者の確認強化
- ②門の開閉時間や警備体制の見直し
- ③学校110番制度などの通報体制の見直し

進捗状況等

- ①警備の方の尽力と保護者の協力で、校門で入構証を提示、確認をした上で入校する体制が定着してきた。
- ②子どもたちの登下校時刻や外来者について、警備の方と教員の間で密に連絡をとれるようになり門の開閉を適切に行える体制が整った。
- ③このシステムの活用の仕方を再検討するとともに、導入に係る費用の見積もりをとり来年度の予算確保を目指した。

事業名 クラス定員減

概要

「一人一人の心のすみずみにわたる教育を」のより一層の充実を図るため、1学級あたりの適正定員数について検討し、クラス定員減等を検討する。

進捗状況等

公立小が35人学級となることから、1学級あたりの適正定員数について協議し、小学校では、2025年度入学生より34人学級、その3年後に財政的な見通しがたてば、32人学級を目指すことを小学校教員で確認した。

○事務部（管理運営）

事業名 諸規程の改正・整備

概要

- ①法改正等に伴う諸規程の改正
- ②『教職員必携』の電子化

進捗状況等

- ①法改正に伴う諸規程の改正は概ね完了した。今後も法改正に伴う規程の改正には随時対応していく。就業規則等にかかわる研修会に参加し、現在の規則で十分でない点がいくつか認識されたので、今後それらへの対応を早急に行っていくこととした。
- ②『教職員必携』の電子化については、2023年度末で完了。その後の運用については、Microsoft365のSharePointを活用するため、SharePointに関する設定の準備を行った。

事業名 学費改訂案の策定と経常費補助金分析

概要

- ①今後の学校運営に関わる方針・優先順位の確認をし、その実現のための学費改訂案を策定する。
- ②経常費補助金における評価係数のさらなる分析を行う。

進捗状況等

- ①光熱費の高騰により、やむを得ず学費を改定することとした。小学校のクラス定員減にともなう財務負担を小学校の学費改定により、乗り越えるための施策を検討した。この学費改定案は、保護者の方々にとっても理解されうるものになっていると考える。
- ②他校の学費改定状況から評価係数の分析を進め、その精度が高まっていることを確信することができた。

事業名 既存校舎維持管理計画の立案、作成

概要

- ①これから15年程度は利用することになる既存旧校舎の維持管理計画の見直しと建替計画の策定を行う。
- ②体育館へ空調設備を導入する。

進捗状況等

- ①今年度に関しては、小学校の既存旧校舎の維持管理計画の見直しを中心に行った。小学校北館HR教室、北館折板屋根、小学校講堂舞台装置の将来の建替を視野に入れた改修計画を策定した。実施された工事としては、小学校講堂の空調設備を入れ替えを行った。
- ②中高体育館の空調設備については、すべての体育室への導入工事を完了した。帰宅困難者向けに施設開放も見込み、防災計画の改定ならびに国立市の防災安全課との災害訓練も実施した。

事業名 学内ネットワークシステムの適切な保守及び更新

概要

- ①新校舎建築に伴い構築したネットワークシステムの維持管理ならびに更新計画を随時更新する。

進捗状況等

- ①年次計画に基づき、サーバー入れ替え作業を実施した。また、中学第3学年の6クラスと、高校全学年の21クラス分の各HR教室にアクセスポイントを設置し、授業やHR活動でもICT端末を活用できるよう整備した。既存のLAN回線と生徒用ICT端末を利用するためのLAN回線を統合し、ICT環境にかかる費用を削減するための更新計画の策定を行った。

事業名 省エネ計画の立案、作成

概要

- ①新校舎建築時に見送った省エネ機器導入等新たな機器導入に向けて検討する。
- ②児童、生徒、教職員へのさらなる省エネに対する意識付けを行う。
- ③新しく導入した空調機器の使用状況の確認と使用計画の策定を行う。

進捗状況等

- ①小学校講堂の空調設備を省エネ仕様にした。また、全熱交換器を手動化することにより、前年比約8.5%エネルギー削減に貢献できた。
- ②生徒への省エネの意識付けとしては、HR教室への空調利用に関する掲示を行った。
- ③一方で、中高体育館空調に関しては、過剰と思われる使用が見受けられたため、使用計画を再度策定し徹底することとした。

事業名 優秀な教職員の確保

概要

教員志望者が減少している現状に応じた教職員の採用人事計画の見直しを行う。

進捗状況等

採用条件の緩和などにより、優秀な人材確保に努めた。しかし、教員志望者が急激に減少している状況もあり、今後採用方針等にさらに手を付けていく必要があると考える。

事業名 人事配置計画の立案、作成

概要

- ① 現行の人事配置制度・計画の見直しをする。
- ② 事務部門の職務整理を行うと共に、職員がより主体的に教育活動に関われるような業務体制を模索する。

進捗状況等

昨年度から引き続き、他校の事務職員人事配置計画の事例調査を行った。今まで図書館長が担っていた視聴覚に関わる設備の更新計画については、管財課が業務を引き取った。更に、管財課業務の見直しを進めることで、ICTなどの新しい職務を職員が担う可能性を模索した。

事業名 教職員のスキルアップ

概要

- ① 現行の研修制度の見直し
- ② 自らの能力を高めることができる自己研鑽機会のさらなる創出
- ③ 職員の積極的なスキルアップの創出

進捗状況等

職員が外に出て研修を行う機会を例年より設けることはできたが、積極的なスキルアップといえるまでの取り組みには至らなかった。現状、どういったスキルが職員に求められているか分析をし、引き続き研修を取得しやすいような環境づくりに努めていきたい。

(3) 女子部門

① 2023年度の事業の概要

2023年度は、コロナが5類に移行し、学校行事の多くをコロナ前に戻すことができた年でした。中でも、幼稚園の年長児の合宿や中高の八ヶ岳高原寮での夏のクラブ合宿、高校の海外研修、短大演劇専攻の八ヶ岳合宿のような宿泊行事は、いずれも4年ぶりに実施できました。戻して感じたことは、長年培ってきた各校の伝統行事には様々な工夫がなされていて、生徒たちはそれを通して成長する、ということです。女子部門を貫く目標は、「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い個性を伸長するヒューマンズムに立つ人間教育を実現する」ことです。人間を育てる教育は、座学だけではできません。そのために、学校行事などの特別活動を大切にしてきました。2023年度、宿泊行事を再開できたことで、参加者が主体的に関わる学校行事の大切さを改めて確認しました。

私立学校として大切な事業の一つが、募集活動です。2023年度の募集活動の結果、いくつかの課題が改めて浮き彫りになりました。幼稚園の応募人数の減少は、保育時間の短さが原因の一つと捉えています。預かり保育の一部拡大は早速2024年度から実施し、更に近未来に向けた構想を早急に練らねばなりません。女子部門各校の学費の増額改定を審議する際も、幼稚園の学費は調布市内の他園の学費と比べかなり高額になっている現状を考慮し、幼稚園のみ据え置くことにしました。そして幼稚園と小学校に共通している課題が、男子と女子の応募者数のアンバランスです。これは、その先の女子中高とも絡む課題です。女子中高の魅力を高めそれをわかりやすく伝えることが、女子中高だけでなく小学校、幼稚園の募集にもつながってくることを肝に銘じなければなりません。短期大学においては、演劇専攻が過去最少の入学者数に留まってしまいました。危機感を抱き、学生募集活動には注力してきましたが、結実せず、歯がゆさを増幅させています。一方で長年の悲願である短大の将来構想について、理事会で協議し、検討を進めていくこととなりました。まだスタートラインに立ったところで、将来構想を実現させるには数年かかります。その間の募集活動こそ、大切です。音楽専攻と合わせ、大きな課題の一つです。

将来構想は、短大のみならず、各校で検討すべき大きな課題です。少子化を目の前にし、どのような規模の、どのような特色を持つ学校にするのか、2023年度も各校で検討を進めました。大きな課題なのですぐに結論を出せるものではありませんが、ゆっくり議論できる課題ではありません。2024年度も継続審議とし、心して臨む所存です。

事務局の業務内容の変更について、です。管財課の無人化は継続しつつ、施設担当者を置き、外部委託業者や校舎改修についての窓口を担ってもらいました。2023年度は途中で退職する方が複数あり、後任の育成が課題となっています。

最後に、女子部門の各校の校舎の改修について、です。2023年度は具体的に検討を進める計画でしたが、当初の予定通りには進められませんでした。一方で、大きな方針は立てました。この方針に基づき、2024年度は計画を進めて行きます。

② 2023年度の主な事業計画及びその進捗状況

○ 桐朋学園芸術短期大学

事業名 教育の改革と質保証

概要

4月より教学マネジメント委員会を発足させ、教学マネジメント体制維新を図ることができた。適切な学習成果の査定のため、短期大学生調査結果を活用し、建学の精神、教育目的の定期的点検と三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）、学習成果、アセスメント・ポリシーの定期的点検を実施する。アセスメント・ポリシーに基づくPDCAサイクルの活用と法令遵守（コンプライアンス）の徹底、単位の実質化の徹底、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーに基づく、体系的・順次的学習の促進を図る。専門科目の定期的点検、教養科目の定期的点検を行い、学位取得率の維持・向上を図る。シラバス電子化は「講義概要」部分の電子化を進め、2024年度から学校便覧のみが冊子となる。また演奏会、発表会、試演会、卒業公演、修了公演等による学内外への学習成果の公表に取り組む。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）の活性化を推進し、「学生による授業評価アンケート」の活用、FD研修会への出席率の向上、講師説明会への出席率の向上を図る。

他大学との連携強化については、桐朋学園大学との単位互換制度の推進、東京演劇大学連盟との連携事業の展開、俳優教育システム研究会との連携事業の展開、JUCA全国芸術系大学コンソーシアム等との連携を図る。

自己点検評価の充実のため、短期大学生調査の結果の活用、自己点検・評価報告書のホームページでの定期的公表、内部質保証ルーブリックの活用、高等学校関係者等の意見聴取、認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認を行う。

情報公開の推進にあたっては、日本私立短期大学協会ガバナンス・コードに基づき、教育情報を公表するとともに、授業評価アンケート、自己評価アンケート等の結果の公表を行う。

進捗状況等

教学マネジメント準備委員会での規程策定を終え、4月からの体制維新を図ることができた。2019年度より一般財団法人大学・短期大学基準協会が年に1回実施する短期大学生調査に参加し、学習成果の査定に活用した。建学の精神と教育目的が、時代・社会のニーズと結びついているか、原則5年毎に点検を行う。2023年度は学則の「学科・専攻課程及び目的」を点検し、認証評価基準等に対応するよう2024年度4月から学則変更することとした。

アセスメント・ポリシーに基づきPDCAサイクルを活用し、自己点検・評価活動を行い、課題と改善計画を明確にした。学校教育法、短期大学設置基準等の法令の遵守に努め、適正な授業回数の確保に努めた。修登録単位数の上限を定めるCAP制について規程の整備を行い、2024年度より学則に明記することとした。

「授業評価アンケート」の結果を活用し科目の点検を行った結果、2023年度は教養科目の一部と専攻科目の一部を変更した。授業全体の総合的評価の満足度は90.3%であった。

学位取得率に関して、芸術科は在籍者の90%以上が短期大学士を、専攻科は大学改革支援・学位授与機構への申請者の90%以上が学士を取得することをめざしており、2023年度も目標値を達成した。

FD研修会（6月26日、12月18日開催）、講師説明会は当日出席できない教員にオンデマンドで視聴できるよう出席率向上のための対策をした。

桐朋学園大学との単位互換では、前期は延べ短大生110名、学部生42名の履修が認められた。後期も延べ短大生52名、学部生37名が単位互換希望があり、ほぼ希望通りの履修が認められた。東京演劇大学連盟との連携事業では、2023年度は試演会の相互鑑賞会とフランスの劇団「太陽劇団」のワークショップを行った。

2023年度短期大学調査結果を分析し、自己点検・評価報告書に反映、結果をウェブサイトに掲載した。大学・短期大学基準協会による内部質保証ルーブリックを活用し、自己点検・評価活動を行っている。

認証評価結果の中期計画への反映、中期計画の進捗状況の確認は、自己点検・評価委員会を中心に、進捗状況を確認している。教育情報の公表は、日本私立短期大学協会ガバナンス・コードに基づいて公開しているが、経年比較可能な形で公表されていない部分については見直しを継続しておこなった。

事業名 学生募集—入試志願者の安定的確保

概要

アドミッション・ポリシーに基づく学生募集を推進し、芸術科入学定員の学生数確保及び専攻科入学定員の学生数確保に努める。オープンキャンパス等への参加者数増加に向けた工夫を図るとともにウェブ出願に関する具体的検討も開始する。広報活動の強化に向けて、ホームページの活用、SNSの活用、活躍する卒業生・在学生の紹介に取り組む。

進捗状況等

2023年度の入学者数は、芸術科が入学定員（120名）に対し、音楽専攻26名、演劇専攻64名、入学定員充足率は75%に、専攻科は入学定員（各専攻20名）に対し、音楽専攻14名、演劇専攻17名、入学定員充足率は77.5%にとどまった。オープンキャンパス等への参加者数は、コロナ禍期間より増加はしているが、コロナ禍より以前に設定した評価指標を下回っている。またウェブ出願の導入についての是非を検討した。

広報活動に関して「本学を知ったきっかけ」はホームページが最多であり、リニューアルしたホームページのイベントレポート等の更新などより効果的な運用を進めた。また、twitter、Facebook、Line、Instagram等でも情報を発信した。本学の教育目的を明確に示すためにも、卒業生・在学生の活躍を積極的に紹介。インタビュー記事のホームページ掲載も開始した。

事業名 将来構想

概要

短期大学将来構想の策定を図るため、芸術教育の将来像の検討を行うとともに、人事計画案、財務（事業活動収支）計画案、施設・設備の整備案の検討に取り組み、将来構想実現に向けた準備を始める。

進捗状況等

将来構想委員会を中心に短大の将来像を検討している。カリキュラム・ポリシーに基づく人事計画案を作成した。短大の将来のあり方を見据え、適切な定員管理とそれに見合った経費に基づく財務（事業活動収支）計画案の検討も進んでいる。施設・設備の整備に関しては、現在、女子部門の建築準備委員会が中心となって進めている校舎の改築・改修の計画を見守りつつ、教育環境委員会を中心に様々な課題に取り組んでいる。2023年度は短大の演劇学部構想を含めた将来構想の実現に向けて、女子部門と音楽部門の間で協議の場を設け情報の共有と意見交換を行うことができた。

○桐朋女子中学校・桐朋女子高等学校普通科

事業名 新教育課程の全面実施、探究型授業の整備・設置、こころの健康の充実

概要

女子中高の特性を活かした新教育課程を編成し、実施する。
正課のプログラムのみならず、課外活動も通して、女子中高が50年間掲げているモットー「こころの健康 からだの健康」の更なる充実を図る。
①探究型・教科横断型の学習として、新たな講座（T-project）をBブロック（中3・高1）に設置し、その成果を一人ひとり発表する。
②「ことばの力」を育てるために、書く力や発表力の育成、授業中の学び合いなど、主体的・協働的な学習をより一層充実させる。
③発表学習を通して、聞く力、聞く姿勢、意見を尊重する姿勢を育てる。
④生徒の主体性・協働性を育てるために、活発な学校行事、部活動を維持、推進する。

進捗状況等

高校新課程の実施に関して、新しく設置された公共だけでなく、家庭一般や数学Bなど、学習内容を新たにした科目も少なくない。入念に準備し、新課程のスタートを滞りなく切ることができた。探究型学習、T-Projectは、2022年度に引き続き高1のみで実施した。問いをたてる、回答を導き出す、それを伝えるという各段階に生徒は奮闘した。2月3月に行った発表とその後の質疑応答についても、成果を発揮し、各自の財産になった。当初計画した目標は達成したと言える。なおT-Projectは、2024年度からはBブロックの2学年で実施する。

事業名 進路指導の充実

概要

個々人の希望する進路を実現する。
①学習時間をしっかり確保するために、学校内での学習場所を用意する。
②進路アドバイザーを常時確保し、総合型選抜、推薦入試の準備にあたる。
③オンラインも活用し、学習支援のシステムを整備する。

進捗状況等

①から③については2022年度と同様なことに留まったが、高3生は旧課程最後の入試、高2以下は新課程での入試に臨むに際し、丁寧にサポートした。高大連携に関して、互いの教育観が近い大学との連携を模索し、新たに提携校を増やすことができた。

事業名 ICT機器の活用と危険性の認識

概要

・個々人に持たせるタブレット端末の活用を図る。
①全生徒にタブレット端末を持たせ、授業にとどまらずあらゆる面で活用する。
・便利な面の裏面に潜む危険性についての認識を持たせる。
①リテラシーを学び、感情に流されずに使用できるタフさを身につける。

進捗状況等

2023年度入学生にも予定通り端末を持ってもらっている。アンケート機能を使った意識調査は、すっかり馴染んだ。2022年度から始めたオンライン英会話は、生徒と教員のスキルが共に向上し、順調に進めることができた。そして2023年度からは出欠のオンライン連絡も導入した。一方、リテラシーの面では、生徒に周知する難しさを感じた一年であった。

事業名 海外研修プログラムの充実

概要

世界に触れる経験を、一人でも多くの生徒に準備する。
①豪州・シンガポール研修の実施。
②2019年度より参加している中国への研修でよい経験を積む。

進捗状況等

本校が企画するプログラムを4年ぶりに実施し、参加した生徒は貴重な経験をすることができた。他校と合同で行う中国研修旅行も実施することができ、本校の生徒はとても主体的に活動し、高い評価を得た。

事業名 危機管理対応の充実

概要

- ・東日本大震災、新型コロナウイルス対応を経て得た経験・知見をまとめ、今後に生かす。
 - ①記録を整理し、残す
 - ②事務局と連携し、非常時に備えて備蓄しているものの過不足などを確認すると共に、機器の操作に慣れる。
- ・避難訓練の見直し

進捗状況等

記録を残すことに関しては、特筆できることはなかった。非常時への対応は、調布市と連携して避難所設置訓練を実施したこと、不審者が侵入したことを想定した避難訓練を初めてを実施した。

事業名 安定的な収入の確保

概要

- ・入学試験応募者の安定的確保
 - ①広報の3ツール（説明会、パンフレット、ホームページ）の検証、改善
 - ②入学試験の検証、改善
 - ③地元を中心とした公立中学校、学習塾への広報活動の充実
- ・寄付金サイトの活用
 - ①「寄付を受ける」から「寄付を募る」への変換を図り、積極的にアピールする。

進捗状況等

説明会での企画をなるべく志願者目線で見直し、その影響があつてか、志願者数は例年並み以上に集めることはでき、中学への入学者も9年ぶりに多い人数を確保できた。入試に関しては、現状でいいのかという問題意識は持ちながらも、よりよい形を構築するには至らなかった。ホームページ、寄付金サイトについても同様である。2024年度への課題とする。

○桐朋小学校・桐朋幼稚園

事業名 施設・整備の拡充

概要

2022年度に引き続き、コロナ感染を防止のため、マスク着用、手洗い、消毒、換気などを徹底した。家庭と協力し、子どもたちの命と健康を守り、充実した保育、教育活動をすすめる。

- ①健康教育の推進。家庭、学校で共同し、食事、睡眠、運動を大切に、免疫力をつけることを促す。
- ②コロナの特徴を子どもと学び、感染しない、ひろげない生活をすすめる。
- ③小学校で1学年分の端末を揃え、ICT教育をすすめる。授業研究を行う。

幼稚園では、人的環境を整えた。預かり保育を開始する。

進捗状況等

コロナやインフルエンザ感染防止を進めたが、小学校ではコロナで3学級が閉鎖し、インフルエンザで12学級が閉鎖となった。①日常の健康教育や保健だよりでお知らせするなどすすめた。②始業式では、丁寧に、健康と予防について養護教諭、保健委員会から伝える機会を持った。③学校で1学年分の端末を揃え、ICT教育をすすめた。

幼稚園では、子どもとかかわる保育者を増やし、3学年すべてに保育補助員が位置づき、子どもの主体性、社会性を育む人的環境を整えた。幼稚園預かり保育は2年目となり、定員を14名から21名に、指導員2名から3名に増やした。

事業名 グローバル化

概要

子どもたちが、これからの未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できる人を目指して教育をすすめている。2020年度より実施した「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語の3つの柱）を充実させる。

- ①中学年では、英語圏のみならず、自分の日常の環境にない言語、習慣、文化をもって生活している方々と触れ合うことで、異文化との出会いから興味を深める。
- ②高学年では、中学年で学習したことを踏まえ、世界の子どもたちの生活、習慣、文化などを切り口に、戦争・紛争と平和、人権、環境の問題など現代的課題やSDGsの学びと、それらを学ぶことの意味を深める。
- ③外国語、英語の学習では、クラスを2分割し、少人数で学ぶ。英語を母国語とする外国人講師とふれあい、コミュニケーションの楽しさを経験する。

進捗状況等

「地球市民の時間」（多文化共生教育、国際理解教育、外国語）の実践をすすめた。子どもたちが、現在と未来を地球市民として、世界の平和や持続可能な未来のために考え、行動できるよう根っこを育てた。

①中学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。スリランカの幼稚園の園長飯塚淳子さん（卒業生）とのロティづくりやスリランカの文化について学んだ。カザフスタンの学校の先生との活動などを行った。

②高学年では、「地球市民の時間」の授業研究を実施した。パキスタンの女性支援「ペーパーミラクルズ」を行っている高垣さんとの授業、イスラミックスクールの子どもたちといっしょの活動、ウクライナの絵本作家ロマナさん、アンドリーさんを招いて「戦争と平和」の授業を行った。

③外国語科の講師と授業研究を行い、カリキュラムを築いた。1学級を2分割し、少人数（18名）での学習を充実させた。

事業名 安定的な収入の確保

概要

私立学校は、建学の精神、教育の理念、目標を実現していくことが使命である。保育、教育の理想を掲げ、手を携えて実現しようという保護者の方たちと協働していく。

①対面では説明会、学校体験会などを行う。女子の応募者を増やす取り組みを行う。

②ホームページの内容を充実させる。

③広報の充実とともに、入試改革をすすめる。

④桐朋幼稚園で幼児期を丁寧に過ごし、成長した子どもたちが桐朋小学校に入学してくるよう、幼小の連携した教育を充実させる。

進捗状況等

説明会やホームページでは、建学の精神、教育理念、教育目標と、日常の教育実践をつなげて説明をした。小学校では、①対面での説明会、体験会を実施した。男子は数時間で予約が満席となった。女子は満席とならない回もあった。②週に一度を目指して、ホームページで教育活動を伝えた。③入試改革をすすめ、広報し、受験希望者を増やす試みをすすめたが、前年度に比べ、男女とも希望者数が減った。幼稚園では、応募者が減少した。幼稚園の募集は、東京都、調布市で定員割れをする園が増加するなど、厳しい状況が続く。幼稚園と小学校の合同授業、活動をすすめた。幼稚園から小学校への進学は女子1名が姉妹が在籍する公立小を選択し、他は全員が進学した。

事業名 建築計画

概要

桐朋学園は、一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い、個性を伸長するという、ヒューマニズムに立つ人間教育を理念に掲げている。その理念を実現する建築をすすめる。目指すものとして、①遊びと学びの共生、②自然との共生、③多様な人々（異年齢、地域、社会）との共生、園舎、校舎は、自発的、協働的な学びを生むもの（調べる、作る、遊び、憩う、表現する、発信する、交流する場）にしたい。自然の中で、地球市民として育つ環境を（豊かな自然の中で遊ぶ、学ぶ。循環型の施設、地域の環境、地球の未来を考える。）整える。目指すものを土台にして、具体的に話し合う。

進捗状況等

桐朋学園の教育理念、建築で目指すもの、日常で大切にしている教育実践から、建築の具体化を考え合った。幼稚園では園舎の環境を子どもと相談しながら考える試みをした。

①建築を研究面から検討した。②他園見学（関東学院こども園、杜チャイルド園）をした。③子どもの成育環境と建築について、幼稚園共同研究者 久保健太氏（大妻女子大学）より学び、園舎の環境を子どもと相談してかえてみた。初等部で話し合いをすすめたものの、部門全体の建築はすすめることができなかった。

〇事務局（管理運営）

事業名 安定的財務基盤の構築

概要

物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化、LEDなどの環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等により管理経費の健全化を図る。

学生納付金は、入学定員の確保や社会情勢、部門の収支状況等を勘案した適切な金額を設定し、安定的収入の確保に努める。

短期大学においては国・政府系機関の競争的資金（補助金）の獲得、高校以下においては東京都等の各種助成の活用、部門全体では寄付金の募集拡大など積極的な外部資金の獲得を図る。そのための組織体制の構築についても検討する。

進捗状況等

環境負荷低減と節減効果が見込める機器の導入による光熱水費等の節減等を図るため、学内のLED化を引き続き進めた。物品購入の集約化一元化、外部委託の導入、ICTの活用による業務改善及び事務業務の効率化についてはある一定の水準に到達しているため、今後の研究が必要であろう。

音楽を志す学生の相対的な減少の影響などから短期大学の学生募集はより状況が悪化している。中学・高校も生徒納付金の確保が厳しい状況の中、より多くの補助金や寄付金の獲得が求められるため、学園全体で引き続きそれらの獲得に努めた。特に高校以下の経常費補助金については、3年ぶりに係数が回復し補助金収入がUPした。

事業名 人材育成・人材活用

概要

事務局の効率的な業務運営を前提とした専任職員、定年後の再任用職員、嘱託職員及び定時職員、派遣職員の配置を行うとともに、外部人材の登用などの可能性も含め、各学校の目的達成のための人員体制を整備する。

職員に必要な教育研究活動支援等の知識及び技能習得や、職員の能力及び資質を向上させるためのSD (Staff Development) 活動などの研修を実施する。

事務処理の簡素化、外部委託の活用、情報化の推進等によって効率化・合理化を図るとともに、業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。

進捗状況等

2023年度は、管財課に課員を配置しない2年目となった。施設設備管理業務は経理課、管財庶務及び管財窓口は総務課、行事関係は学務課、短大教学課も従前通り全体的な管財業務を担うという態勢を取った。全体的には特に大きな問題はなく機能したと考える。また、短期大学と共催のFD・SD研修会には多くの職員が参加した。

2022年度より施設設備管理業務の一部及び施設設備点検作業を外注したが、結果として効率化が図られたと考える。2023年度は総務課へICT業務を位置付けたことにより、ICTの専門知識のある派遣職員の雇用を図った。この2例のように専門性の必要な業務については外注しその機能を高めると共に、外注した結果発生するマンパワーを事務局のコア業務に注力することで、結果として業務の合理化・効率化を目指したいと考える。

事業名 施設設備の整備・拡充

概要

良好な教育環境が保持されるよう既存施設の適切な維持・管理を行う。

施設設備の整備・更新にあたっては、学科の改編や入学定員や教職員数の見直しなどを考慮した中長期的な整備計画を策定する。

学内ネットワークシステムや事務局管理の各種システムについては、セキュリティ上の観点から適切に保守および更新を行う。

進捗状況等

校舎改修計画の検討・立案については、全学でコンセンサスを得ることが難しく2023年度についても難航した。

特にセキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討を開始した。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制については脆弱と言わざるを得ない。

事業名 ガバナンス体制の整備

概要

私学関連の各種法令やガイドライン等の見直しを行い、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図る。

逸脱や漏れを防ぐためのチェック体制を事務局全体で構築し、内部統制機能の充実を図る。

定期健康診断やストレスチェックの結果が教職員の健康管理に適切に生かされるよう衛生委員会、産業医、カウンセラー、保健室と協力して対処する体制を整える。

「学校法人桐朋学園個人情報保護方針」等を遵守し、個人情報や安全かつ適正に管理・運用するとともに、Webサイト及び学内情報システムの安全性確保を徹底する。

各種ハラスメントを防止や労働環境改善のための研修等も積極的に実施する。

進捗状況等

業務遂行においては、事務局すべての部署・職員間で法令遵守の徹底を図っている。チェック体制など内部統制機能についても都度検証・見直しを図っているが、2023年度については定期預金の運用について内部統制機能の脆弱さ・曖昧さを露呈する案件が発生してしまった。

2022年度より新規に契約した産業医を迎え、新たな衛生管理体制が構築されている。2023年度については産業医に対し教職員の面談申し込みが増加した。

セキュリティに関し、情報関係委員会を中心に検討を開始した。セキュリティに関する重大なインシデントは学内グループウェアに掲載され周知が図られているが、学内における体系的な情報セキュリティ体制については喫緊の整備が課題である。

(4) 音楽部門

① 2023年度の事業の概要

世の中が徐々に通常に戻ってきました。

音楽部門が行っている教育は、そこに学ぶ生徒や学生が、日ごろ研鑽を積んで身に付けた何事かを、演奏会という場で聴き手に届けることで、一つの「かたち」が成り立ちます。その大切な場「演奏会」が計画通り行われることは、以前であれば「当たり前のこと」のようにとらえられていました。英語のnormal「通常の」という単語はしばしばusual「平常の」という単語と同じ意味に扱われますが、実は、その当たり前のことが、いかに有難い事であるのか、usualなことこそunusualだったのではないかと痛感するようになりました。

2023年度の当初予算に前置きされた「事業計画」として音楽部門の掲げた事業は、演奏会を中心にしたものでしたが、その他にも、学部や大学院で開講しているいくつかの授業の内容を見直し、科目名を変更しました。また、いくつかの専攻においては今後のカリキュラム改定に至る可能性のある教育内容の変更についても、議論を始めました。そうした2023年度の主な事項について、その概要と進捗状況を簡潔に報告します。

② 2023年度の主な事業計画及びその進捗状況

○桐朋学園大学（仙川）、桐朋学園大学院大学（富山）

事業名 認証評価の受審

【概要】

7年に一度の日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受審。

【進捗状況等】

自己点検評価書の作成、文章による評価チームとの事前のやり取り、評価チームとの面接調査、事後のやり取りなど、一連の評価作業の後、評価機構から結果が伝えられ、桐朋学園大学、桐朋学園大学院大学共に日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合しているとの認定を受けた。

○桐朋学園大学、桐朋女子高等学校音楽科

事業名 演奏会

【概要】

4月：卒業演奏会、声楽コンサート、宮崎国際音楽祭、5月：弦楽アンサンブルの夕べ、第107回室内楽演奏会、6月：ヴィオラスペース、高校・大学Student Concert、第45回作品展、Symphonic Winds、第108回室内楽演奏会、7月：オーケストラ演奏会（Bオケ）、8月：桐朋ピアノコンペティション本選、9月：佐々木成子賞受賞記念コンサート、10月：桐朋ピアノガラコンサート、大学Student Concert、11月：女子校オーケストラ、12月：音大オーケストラフェスティバル、第42回パーカッションの夕べ、チェロアンサンブル、ハープアンサンブルの夕べ、1月：合唱の夕べ、弦楽オーケストラ演奏会、オーケストラ演奏会（Bオケ）、3月：大学ピアノ専攻卒業演奏会、オーケストラ演奏会音大フェスティバルの開催

【進捗状況等】

計画されていた演奏会は全て、予定通りに開催された。また、実技指導教員ごとに企画された「木の香りコンサート」は、桐朋学園宗次ホールを使って、全19回、開催された。

事業名 広報活動

【概要】

オープンキャンパス、学校説明会等の充実

【進捗状況等】

定例のオープンキャンパスの他、学校説明会のための訪問校14校、体験レッスンを11回実施した。また、SNS(XやInstagram等)での投稿を以前よりも行い、本学の魅力を伝える発信を行った。

懸案のホームページのリニューアルに関して、広報・募集対策委員会にワーキングチームを作り、具体的に動き出すこととなった。

○桐朋学園大学

事業名 授業内容の点検

【概要】

科目の内容を点検し、必要に応じて科目名を変更。

【進捗状況等】

学部に置かれている約30科目、大学院に置かれている約15科目について、名称や単位の点検・修正を行った。また、学部の音楽学専攻や作曲専攻のカリキュラム変更について、検討を始めることとした。

また、学部の専攻の教育内容を見直し、音楽学専攻を「ミュージコロジー専攻」に名称変更して、その教育内容についても改変の検討を始めた。

事業名 新コースの検討(大学院)

【概要】

大学院における新たなコースの検討

【進捗状況等】

室内楽やソルフェージュを主に学ぶコースを設置できないか、検討を始めた。

○桐朋学園大学附属子供のための音楽教室

事業名 在籍者の把握

【概要】

在籍者のリアルタイムでの把握

【進捗状況等】

在籍者を把握するためのデータを数回、作成した。しかしながら、月毎に動きのある在籍者をリアルタイムで把握するためのデータベースの必要性は、以前から認識していたところではあるが、未だ、構築できてはいない状況である。

事業名 運営の安定

【概要】

音楽教室全体の収支の改善

【進捗状況等】

環境維持費を1,000円から1,500円に値上げするなどし、音楽教室全体として、コロナ禍前の3千万円の黒字を目指したが、実際には1,254万円にとどまった。

事業名 新授業の設置

【概要】

必要に応じた新たなレッスンや授業の設置

【進捗状況等】

教室からもたらされた新しい授業等の設定要請に応じて、全体で総数8個のコースを新設した。

事業名 音楽教室シンポジウム

【概要】

各教室から1名の教員を招いてのシンポジウム

【進捗状況等】

ソルフェージュ教員による講演、ソルフェージュのカリキュラムの概要説明の他、各教室の代表による質疑応答など、時間が限られるなか、充実した内容で行われた。今後、定例化して継続実施されることが肝要である。

○桐朋オーケストラ・アカデミー（富山）

事業名 演奏会

【概要】

4月：第66回定期演奏会、5月：コンチェルト実習、6月：第67回定期演奏会、9月：特別演奏会、11月：第51回室内楽定期演奏会、特別演奏会の開催

【進捗状況等】

計画されていた演奏会は予定通り、開催された。また、地域出向演奏会、保育所出向演奏会、ウィークエンドコンサートなども計画通りに開催した。（出向演奏会37回実施（保育所・幼稚園8カ所、小学校6校、福祉施設3カ所、街角のクラシック12回、市行事6回、ウィークエンドコンサート2回）、演奏クリニック2回）

○短期大学との関連

事業名 桐朋学園芸術短期大学との連携強化

【概要】

芸術短期大学との連携の強化

【進捗状況等】

2023年度、授業連携で短大生が音楽学部の授業に受講登録した数は、前期110名、後期49名の合計159名であった。

短期大学演劇専攻の学部化（4大化）に関して、協議を進めるためにワーキンググループ（それぞれ5名ずつ出席）を作り、キックオフの会合を持った。

○調布1号館

事業名 調布1号館での学部授業

【概要】

学部の授業の一部を調布1号館で実施

【進捗状況等】

2023年度の学部授業のうち新たに「音楽理論(分析)」「作曲法演習」「音楽科教育法」「教職実践演習」「創作演習」など、前期9コマ、後期13コマ、通年3コマの計25コマを調布1号館で行い、調布での授業は合計で112コマとなり、仙川校舎の教室需要状況の逼迫を僅かではあるが、改善した。

○教務関連

事業名 教務の電算化

【概要】

前年度に引き続き、教務関連の業務を電算化して、業務の効率を向上する。

【進捗状況等】

科目登録、成績報告、学生カルテの電算化が完了し、運用が始まった。一部、積み残した内容を次年度送りとした。

○事務局

事業名 グループ・チーム制の点検

【概要】

2021年度に部・課制からグループ・チーム制に改編した事務組織の点検を行い、改善する。

【進捗状況等】

専任・嘱託事務職員を対象にSD研修「業務棚卸研修」を行った。各自の業務を棚卸・可視化することで他の職員との比較等を通じ、改善点に気づくとともに、グループ、チームを越えた業務理解を進めることができた。

事業名 Covid-19に起因する状況への対応

【概要】

遠隔で行う会議をより良い形で実施する。

【進捗状況等】

ほぼ全ての会議で対面と遠隔を併用し、移動時間の短縮、業務の効率化、会議資料のペーパーレス化につながった。

事業名 収支バランスの適正化

【概要】

- ①中期計画・事業計画に基づいた予算措置をし、有効的に予算執行をする。
- ②補助金、寄付金等、外部資金を積極的に確保する。

【進捗状況等】

- ①物価高騰、光熱水費の値上げ等、不測の事態が発生し、予算超過分は補正予算に計上した。財務チームで予算の執行状況を確認しながら有効的に予算を執行できた。
- ②当初予定していた額よりも寄付金を多く獲得でき、海外留学支援、特待生奨学金という形で学生・生徒に支給した。

事業名 効果的な広報活動の強化

【概要】

- ①ホームページをリニューアルし、音楽教室から大学院まで幅広く学生・生徒募集を行う。
- ②新聞、音楽雑誌等、効果的な紙媒体に広告を掲載する。

【進捗状況等】

- ①今年度はリニューアルできなかったが、ホームページに関するワーキングチームを結成することを決定した。次年度、リニューアル予定である。
- ②新聞、音楽雑誌等、紙媒体の広報は例年通りの実績であった。紙媒体の他に、新たに京王線新宿駅構内での電光掲示板、京王線内の車内広告を掲載することを決定した。

事業名 教育研究環境の充実及び安全で快適な学習環境の実現

【概要】

新校舎建築後は既存校舎の補修を計画的に行う。

【進捗状況等】

計画通り老朽化した富山キャンパスの外壁補修工事を行った。

事業名 教職員の採用計画の策定

【概要】

適正な人員配置を策定し、優秀な教職員を計画的に採用する。

【進捗状況等】

採用検討会議で将来的な人員計画を再確認した。今後も中長期的な採用計画に基づき予算化していく。

事業名 職員の資質・能力向上

【概要】

- ①研修会・講習会に積極的に参加し、法令、諸規程、政策、内外の諸情勢等を学ぶ。
- ②研修終了後は他の職員に報告し、情報の共有を図る。

【進捗状況等】

- ①専任職員だけでなく非常勤職員も積極的に参加し、自己啓発に努めた。
- ②研修報告書の作成、口頭での報告で情報共有を行った。

事業名 多様かつ効率的な事務システムの導入

【概要】

- ①給与・会計システムをリプレースする。
- ②教学システム（成績管理・履修登録）を導入する。

【進捗状況等】

- ①導入し、新システム稼働中である。
- ②一部導入し、次年度に完成予定である。

(5) 法人本部

① 2023年度の事業の概要

学校経営の厳しさと先行きの不透明感が強まる中、男子・女子・音楽の三部門には、それぞれの持ち味を生かした特色ある取り組みや魅力ある質の高い教育が求められています。法人本部は、不
断の改善に取り組む各部門のため、必要な調整と支援を行ってきました。

法人全体の管理運営にも関わる中期計画においては、法人としての一体性に留意しながら三部門
と調整を進め、外部理事の提言を反映した内容とすべく検討を続けた結果、従来のローリング方式
からフィックス方式に変更することになりました。目標の実現に向けて努力するとともに、中期計
画自体の質の向上にも引き続き取り組んでまいります。

理事会、評議員会及び法人運営審議会等法人諸会議の開催に関わる業務、法人本部及び法人全体
の予算・決算とりまとめ、所轄庁等への届出等日常の業務においても、三部門との連携により、滞
りなく遂行することができました。

改正私立学校法への対応については、多岐に亘るその改正内容への理解を深めるため、会議や研
修会を通じ、法人内部への周知を図ってきました。ポイントとなる理事及び評議員の定数並びに理
事選任機関等については、三部門と数次の協議を重ね、決定を見たところであります。

② 2023年度の主な事業計画及びその進捗状況

【法人全体】

事業名 ガバナンス体制の整備—最適な管理運営体制の構築

概要

桐朋ならではの「本部」のあり方を研究し、法人全体の課題に対応できる体制を構築する。

進捗状況等

前年度に続き、理事会・評議員会等法人諸会議の議事録を通覧、本部及び法人に関わる議論を
①理事会運営、②本部事務、③法人運営のあり方、に整理した。

事業名 安定した経営基盤の確保—広報の活性化とブランドイメージの模索

概要

広報担当者間の情報交換の場を提供し、各学校の広報活動活性化に資する。

進捗状況等

部門の広報担当者による情報交換会を主催。自部門の活動報告のほか、他部門の活動内容につ
いて自由な意見交換を行った。

事業名 施設設備の整備・充実—省エネへの支援

概要

2027年度を目標に、5年度間のエネルギー使用原単位年平均1%以上改善を継続的な取り組み
により目指す。

進捗状況等

担当者会議を3回、省エネ企画推進会議を2回それぞれ開催、各部門のエネルギー使用量及び
管理標準遵守状況を確認すると共に部門間の情報交換の場を提供した。
部門の省エネ支援のための資金補助を提案したところ、法人運営審議会において意見が交わさ
れたことを受け、計画を見直すこととした。

【法人本部】

事業名 ガバナンス体制の整備—理事会・評議員会の活性化

概要

審議の更なる活性化に繋がる具体策を検討し、実施する。

進捗状況等

活性化のための運営上の工夫として、①適正な審議時間の確保、②役員間情報格差の是正、③
役員の交流機会の創出、④審議内容のフィードバック、⑤陪席者の限定、について検討した。

事業名 安定した経営基盤の確保—経費の見直しと効率化

概要

書類の電子化によりコスト削減、業務の効率化をめざす。

進捗状況等

現行寄附行為の下では電子化はできないため、私学法改正に伴う寄附行為変更の際、この点を
解消する。電子化着手は寄附行為変更後に行うことにした。
議事録確認、理事長印申請、会議室予約等について電子化の検討を重ねたが、実施に至るもの
を決定できなかった。

事業名 施設設備の整備・充実—ポロニア館等の改修等

概要

施設・設備の必要な改修等を行う。

進捗状況等

女子部門の校舎改修事業の一環として法人本部所管エリアにおける要望の聞き取りを受け、同
部門に提出した。

4 その他

(1) 施設設備

①男子部門

○ 中高 体育館空調設備工事(Ⅱ期)

- ・工事概要 熱中症対策として、第2体育室、柔道場、第4体育室に空調設備を新設した。
- ・工事費用 30,173,000円
- ・施工業者 株式会社エコ・プラン
- ・工事期間 2023年5月16日～6月16日

○ 中高 無線AP設置工事

- ・工事概要 学習用各種端末機器(タブレット等)を教室で授業及び学習用として使用するため、教室に無線AP機器を設置した。
- ・工事費用 27,891,050円
- ・施工業者 ウチダエスコ株式会社
- ・工事期間 2023年7月21日～8月16日

○ 中高 散水設備制御盤更新工事

- ・工事概要 経年劣化による制御盤の不具合を未然に防ぐため、機器を設備更新した。
- ・工事費用 4,180,000円
- ・施工業者 三協工業株式会社
- ・工事期間 2024年3月21日～3月22日

○ 小 講堂空調設備改修工事

- ・工事概要 省エネ対策として、高効率空調機に設備更新した。
- ・工事費用 13,816,000円
- ・施工業者 株式会社エコ・プラン
- ・工事期間 2023年8月16日～8月29日

○ 小 体育館屋根改修工事

- ・工事概要 経年劣化による雨漏りなどの不具合を未然に防ぐため、改修工事をした。
- ・工事費用 8,800,000円
- ・施工業者 株式会社ベーシング
- ・工事期間 2024年2月16日～3月31日

②女子部門

○ 初等部低学年校舎・高学年校舎LED化工事

- ・工事概要 屋内照明のLED化を行った。
- ・工事費用 4,950,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2023年12月23日～12月26日

○ 屋内プールトイレ改修工事

- ・工事概要 和式トイレ1台を洋式トイレにする工事を実施した。
- ・工事費用 1,320,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2023年6月24日～6月29日

○ 第1変電室PCB含有変圧器更新及び幹線ケーブル調査

- ・工事概要 低濃度PCB含有の変圧器の撤去及び更新工事を実施した。あわせて周辺ケーブルの調査も実施した。
- ・工事費用 2,332,000円
- ・施工業者 大和ライフネクスト株式会社
- ・工事期間 2023年8月16日

③音楽部門

○ 富山キャンパス呉羽寮正面玄関ドア更新工事

- ・工事概要 既存の木製ドアが古くなったため、ガラス製ドアに交換した。
- ・工事費用 1,287,000円
- ・施工業者 株式会社竹中工務店 富山地区FMC
- ・工事期間 2023年8月28日

(2) 学費及び補助金等

①男子部門

学費

(単位:円)

学校名	項目	入学金	進学科	建設資金	授業料 (月額)	施設拡充費 (月額)	生徒諸費 (月額)	入学検定料
桐朋高等学校		270,000	230,000	130,000	40,200	10,000	2,500	25,000
桐朋中学校		270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000 *
桐朋学園小学校		270,000		130,000	41,200	10,000	2,500	25,000

* 第1回と第2回の両方に出願する場合、同時出願の場合、38,000円

補助金

東京都経常費補助金	桐朋高等学校	352,988,000
	桐朋中学校	234,821,500
	桐朋学園小学校	123,614,300
私立高校等授業料軽減助成金		39,719,100
結核予防費都費補助金		112,669
都内生就学促進補助金		1,083,300
就学支援金学校事務費補助金		1,178,000
外国語指導助手活用事業費助成金		9,112,435
デジタル教育環境整備費助成金(小・中)		12,757,000
省エネ設備等導入事業費助成金(中・高)		9,210,000
体育館空調設備新規導入費助成金(中・高)		15,086,000
学校保健特別対策事業費補助金(小・中・高)		341,000
その他		24,084,000
計		824,107,304

学園債 2023年4月～2024年3月までの受入額

桐朋高等学校	19,800,000
桐朋中学校	36,400,000
桐朋学園小学校	16,200,000
計	72,400,000

②女子部門

学費

(単位:円)

学校名	入学金	施設拡充費	授業料	施設維持費	学生諸料	演習・実習費	入学検定料
桐朋学園芸術短期大学	420,000	170,000	1,114,000	80,000	32,000	45,000	35,000
芸術科	330,000	170,000	989,000	70,000	32,000	120,000	35,000
専攻科	10,000	—	999,000	70,000	32,000	45,000	35,000
演劇専攻	10,000	—	989,000	70,000	32,000	130,000	35,000

学 校 名	入学金 進学手続料	施設拡充費	授業料 (月額)	施設維持費 (月額)	生徒児童諸料 (月額)	教育充実費 (年額)	入学検定料
桐 朋 女 子 高 等 学 校	230,000 100,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 女 子 中 学 校	270,000	100,000	43,200	12,500	24,000	—	23,000
桐 朋 小 学 校	300,000	100,000	50,600	11,500	24,000	24,000	25,000
桐 朋 幼 稚 園	300,000	—	49,600	10,500	24,000	24,000	20,000

補助金

私立大学等経常費補助金	
桐朋学園芸術短期大学	32,575,000
東京都経常費補助金	
桐朋女子高等学校	302,690,200
桐朋女子中学校	176,859,700
桐朋小学校	109,017,700
桐朋幼稚園	13,393,800
授業料等減免費交付金(短)	17,505,000
結核予防費都費補助金(短・高)	86,357
私立高校授業料軽減助成金(高)	20,035,600
都内生就学促進補助金(高)	532,500
就学支援金学校事務費補助金(高)	643,000
外部検定試験料助成(高)	2,743,000
省エネ設備等導入事業費助成金(幼・小)	3,299,000
新入生端末整備費助成金(高)	1,980,000
私立幼稚園預かり保育推進補助金(幼)	1,000,000
私立幼稚園教職員研修費補助金(幼)	50,000
調布市事業者物価高騰支援事業費補助金	300,000
調布市物価高騰対策補助金(幼)	152,000
私立幼稚園事務取扱補助金(幼)	120,000
保存樹木せん定補助金	500,000
緑の補助金	249,700
計	683,732,557

教育環境整備寄付金 2023年4月～2024年3月までの受入額

桐朋女子高等学校	1,450,000
桐朋女子中学校	12,150,000
桐朋小学校	11,600,000
桐朋幼稚園	4,400,000
計	29,600,000

③音楽部門

学費

(単位:円)

項目 学校名	入学金	運営維持費	授業料	施設設備費 (施設拡充費)	学生生徒 諸料	入学検定料
桐朋学園大学院大学	300,000	—	800,000	—	—	30,000
桐朋学園大学大学院	150,000 (本学卒業) 350,000 (他大学卒業)	100,000	1,200,000	150,000	—	30,000
桐朋学園大学	500,000	300,000 (各年次)	1,360,000	390,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 研究生	320,000 (外部のみ)	—	450,000	100,000 (外部生) 70,000 (内部生)	—	55,000 (新規外部) 5,000 (内部・継続外部)
桐朋学園大学音楽学部 ソリスト・ディプロマ	450,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋学園大学音楽学部 カレッジ・ディプロマ	200,000	—	900,000	100,000	—	55,000
桐朋女子高等学校 音楽科	200,000 (外部生) 100,000 (※)	300,000 (各年次)	820,800	127,600	13,800	52,500
桐朋オーケストラ・ アカデミー	108,000	—	648,000	—	—	16,500

※ 桐朋中学校及び桐朋女子中学校卒業

補助金

国庫補助金

一般補助(大学院大学)	0
一般補助(大学)	64,581,000
特別補助(大学)	
大学院等の機能の高度化	2,072,000
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)	31,001,300
計	97,654,300

東京都補助金

一般補助(高校)	63,400,400
特別補助(高校)	7,217,200
都内生就学促進補助(高校)	412,800
結核予防費補助(高校)	18,553
結核予防費補助(大学)	49,251
私立学校等授業料軽減助成金(高校)	5,127,700
就学支援金学校事務費補助(高校)	544,000
計	76,769,904

富山市補助金

富山キャンパス運営費補助金	200,000,000
施設整備費補助金(大学院大学)	15,000,000
演奏会開催負担金(オーケストラ・アカデミー)	20,000,000
計	235,000,000

(3) 入学試験結果

①男子部門

桐朋高等学校・桐朋中学校・桐朋学園小学校

	募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校	一般 約50名	251	244	158	65
	内部 -	248	240	248	248
	計	499	484	406	※ 313
中学校	一般 第1回 約120名	375	347	155	131
	一般 第2回 約60名	640	515	236	58
	内部 -	67	67	67	67
	計	1082	929	458	256
小学校	男子 72名	437	397	58	36
	女子	209	176	71	36
	計	646	573	129	72

※但し高1生の在籍者数は、留年者も含めて313名となります。

②女子部門

桐朋学園芸術短期大学

			募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
芸術科音楽専攻	総合型A	I 期	30	9	9	9	9 (1)
		II 期		3	3	3	3 (1)
		III期		2	2	2	1 (1)
		IV期		7	6	6	6 (0)
	総合型B	I 期		0	0	0	0 (0)
		II 期		0	0	0	0 (0)
		III期		0	0	0	0 (0)
	社会人	I 期		2	2	2	2 (0)
		II 期		2	2	2	2 (0)
		III期		2	2	2	2 (1)
	学校推薦型			10	0	0	0
一般	A方式	10	0	0	0	0 (0)	
	B方式		1	1	0	0 (0)	
計			50	28	27	27	25 (4)
専修科 別科音楽専攻	ピアノ		—	14	13	13	11
	声楽		—	3	3	3	3
	フルート		—	1	1	1	1
	オーボエ		—	2	2	2	2
	クラリネット		—	1	1	1	1
	トロンボーン		—	1	1	1	1
	ホルン		—	1	1	1	1
	ヴァイオリン		—	2	2	2	2
	チェロ		—	1	1	1	1
	ギター		—	2	2	2	2
計				28	27	27	25
芸術科 演劇専攻	総合型A	I 期	40	19	19	19	17 (1)
		II 期		17	17	17	16 (4)
	総合型B	5		5	4	4 (0)	
	学校推薦型	20		6	6	6 (3)	
	一般	10		7	7	7	6 (1)
計			70	54	54	53	49 (9)
芸術科 計			120	82	81	80	74 (13)

		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
専攻科	演劇専攻	20	26	22	20	19 (2)
	音楽専攻	20	12	12	12	12 (1)
			0	0	0	0 (0)
	計	40	38	34	32	31 (3)

桐朋女子高等学校（普通科）・桐朋女子中学校・桐朋小学校・桐朋幼稚園

		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
高等学校 (普)	推薦	約15	10	10	10	10
	帰国生	約20	10	9	8	5
	一般	約50	35	33	31	14
	内部進学	—	149	149	149	149
	計	—	204	201	198	178
中学校	一般(A入試)	約130	125	115	104	86
	Creative English	約10	12	12	7	4
	論理的思考力&発想力入試	約40	42	25	17	8
	一般(B入試) 2科	約40	89	26	20	10
	4科	—	81	42	42	17
	帰国生	約20	3	2	2	1
	計	約240	352	222	192	126
	内部進学	—	61	61	61	61
小学校	男子	—	413	283	253	187
	女子	47	343	284	44	23
	計	47	176	122	47	24
	内部進学	—	519	406	91	47
	計	—	25	25	25	25
幼稚園	男子	26	38	37	15	14
	女子	—	14	12	12	11
	計	26	52	49	27	25

③音楽部門

調布・仙川キャンパス

学 校 ・ 学 部 名 等		募集人数	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
桐朋学園大学	大学院音楽研究科					
	修士課程	45	52	50	48	46
	博士後期課程	3	12	11	5	5
	小計	48	64	61	53	51
	音楽学部					
	音楽学科 一般	90	61	60	57	48
	指定校推薦一種	20	15	15	15	15
	指定校推薦二種	50	40	40	40	39
	一般推薦	15	8	8	8	8
	特待生	5	7	7	2	2
	飛び入学	若干名	0	0	0	0
	小計	180	131	130	122	112
	編入学	若干名	1	1	1	1
	特別転入学	若干名	0	0	0	0
桐朋女子高等学校	音楽科 一般	90	51	51	51	51
	一般推薦	10	1	1	1	1
	小計		52	52	52	52
ディプロマ・コース	ソリスト 新規	—	12	11	6	6
	継続	—	15	15	15	15
	カレッジ 新規	—	32	32	30	25
	継続	—	34	34	34	33
	小計		93	92	85	79
研究生	[1]	—	14	14	14	14
	[2] 継続	—	25	25	25	23
	[3]	—	13	13	13	13
	小計		52	52	52	50
科目等履修生	一般	—	17	17	17	17
	小計		17	17	17	17
計			410	405	382	362

富山キャンパス

桐朋学園大学院大学	音楽研究科演奏研究専攻					
	修士課程 特待生	—	0	0	0	0
	一般	10	7	7	7	7
	小計		7	7	7	7
科目等履修生	内部	—	1	1	1	1
	外部	—	0	0	0	0
	小計		1	1	1	1
桐朋 オーケストラ・アカデミー		—	133	130	22	22
	小計		133	130	22	22
	計		141	138	30	30

(4) 教職員研究研修

①女子部門

◎部門内研修制度利用者

所属	個人・共同	氏名(代表者)	研究課題
中高部	個人	吉崎 亜由美	高等学校におけるプロジェクト学習のカリキュラムデザインと自己変容
初等部	共同	星野 俊樹	「生きづらさ」の視点から社会の「ふつう」を問い直す研究
	共同	齋藤 宇宙	桐朋教育を深める ～理念と具体の結び付け～
	個人	東原 和郎	よりよい教育評価の探求

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー344 シアター風姿花伝プロデュース 「おやすみ、お母さん」 屋根裏ハイツ「父の死と夜ノ町」 東京演劇道場「わが町」	『テアトロ』カモミール社	2023年4月
		「不条理」のかたち——ほろびての細川洋平	『テアトロ』カモミール社	2023年5月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー346 世田谷パブリックシアター『ハムレット』 温泉ドラゴン『悼、灯、斎藤』 若葉町ウォーフ『CABARET キャバレー』	『テアトロ』カモミール社	2023年6月
		「にこい」のポリティクス ——『そんなに驚くな』と日本の不条理演劇	The Korean Theatre Journal	2023年6月
		書評「村山知義の演劇史」	図書新聞	2023年6月3日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー348 SPACせかい演劇祭『ハムレット(どうしても！)』 イキウメ『人魂を届けに』 インバル・ピント『リビングルーム』	『テアトロ』カモミール社	2023年8月
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー350 りっかりっかフェスタACO沖縄製作 『プレーメンの音楽隊』 Kawai Project『悪い仲間』 俳小『これが戦争だ』	『テアトロ』カモミール社	2023年8月
		家族・社会・国家という共同体 ——永井愛の作品をもちいて	Theatre Communication Magazine (30) 13 2023年9月27日	2023年9月27日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー352 木ノ下歌舞伎『勸進帳』 流山児★事務所『瓦礫のオペラ★戦場のピクニック』 錬肉工房『ハムレットマシーン』	『テアトロ』カモミール社	2023年10月
		書評「寺山修司の遺産」	図書新聞	2023年11月11日
		飛躍の核心「条件の演劇祭」のカンパニーたち	図書新聞	2023年11月18日
		演劇書回顧(2023年)	週間読書人	2023年12月23日
		YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング2023: 小ささからはじまる	Real Tokyo	2024年1月30日
		巻頭リレー劇評 今月選んだベストスリー354 KAAT『外地の三人姉妹』 さいたま国際芸術祭2023 『仕事と働くことを演じる2』 wonder× works『未踏』	『テアトロ』カモミール社	2024年2月

所属	氏 名	著作、論文等	出版社、学会誌名等	発表年月日
短大部	高橋 宏幸	コロナ以後の演劇の世界	図書新聞	2024年2月3日
		あそびがあそびになるとき——「劇場留学～お芝居をつくる7日間～」にて	小田原三の丸ホールブログ	2024年2月12日
		二つの大作から「ワースト」の傾向を考える『金夢島』と『ニッポン・イデオロギー』	『テアトロ』カモミール社	2024年3月
中高部	内藤 芳宏	好奇心をくすぐり、資料とインターネット情報の上 手な活用	「学びのチカラe-na vol.5」 教育出版	2023年10月1日
		1枚の写真から「ノルウェー／ロシア国境を訪ねる」	地理教育研究会会報568 号	2024年3月23日
	岡野屋宏一	〔作品出展〕 第16回 許我篆書展、「刻狸」 第74回毎日書道展、「否」 第12回玄潮会秋季書展、「山水」 第56回玄潮会書展、「游」 2024中日書法作品交流展、「祥鳳」	古河市・篆刻美術館 国立新美術館 セントラルミュージアム銀座 東京都美術館 中国・山西大学美術館	2023年4月29日 2023年7月12日 2023年8月31日 2024年2月13日 2024年3月

②音楽部門

「桐朋学園大学研究紀要」第49集

◎論文

大学	沼野 雄司	音楽におけるヒロシマ・ナガサキの表象をめぐって——類型と表象不可能性——
	今井 千絵	ベートーヴェン『ピアノ・ソナタ第30番』(作品109)第3楽章の解釈 ——連作歌曲集『遙かなる恋人に』(作品98)との比較を通して——
	金子 仁美	1970年代フランスにおける新しい作曲の姿勢 ジェラルド・グリゼイの拍とリズムについての考察
	西原 稔	寶塚音楽研究會における音楽活動に関する研究 大正時代末における寶塚歌劇團の洋楽受容
	前原 恵美	豊後三流の『山姥』考——文化財保護委員会作成の富本節レコードを起点に——
	栗田 桃子	ルイーゼ・ライヒャルトの《ピアノ伴奏つき12の歌》にみるドイツロマン主義の萌芽

◎研究ノート

大学	杵鞭 広美	特別支援教育のニーズに対応できる音楽科の教員養成について考える ——特別支援学校、特別支援学級での実践例をてがかりにして——
	鶴園 紫磯子	20世紀初頭のブルターニュ・クラシックの音楽家たち ——地方文化の再興と民俗性の活用——
	野川 夢美	初期計量記譜法における「プリカ」——その歌唱法と消滅への一考察
	奥野 元子	『吸血鬼ドラキュラ』における信頼できない語り手

Ⅲ 財務の概要

1 決算の概要

(1) 貸借対照表

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産全体は、2019年度末282億1700万円から2023年度末272億6900万円に、9億4800万円減少しました。

有形固定資産は、建設仮勘定13億2400万円を除いた188億8300万円から182億4000万円と、6億4300万円の減少となっています。土地と建物とで計3億8100万円減少したことが影響しています。また、教育研究用及び管理用の両機器備品の計1億7000万円の減少は主に減価償却によるものです。

負債全体は、2019年度末69億7900万円から2023年度末59億5400万円に、10億2400万円減少しました。

固定負債は、52億8700万円から43億6200万円に、9億2500万円減少しており、長期借入金7億1100万円の減少が主なものです。負債のうち有利子負債（長期借入金と短期借入金）は、26億900万円から18億9800万円に減少しました。4年の間に27.3%減少しています。

(単位：百万円)

科 目	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末
固定資産	24,972	24,924	24,214	23,972	23,266
有形固定資産	20,207	20,343	19,396	18,903	18,240
土地	1,541	1,541	1,397	1,397	1,397
建物	13,768	15,194	14,517	14,051	13,530
構築物	853	851	791	737	690
教育研究用機器備品	970	994	913	928	835
管理用機器備品	97	91	79	73	63
図書	1,654	1,672	1,698	1,717	1,726
建設仮勘定	1,324	0	0	0	0
特定資産	3,954	3,991	4,179	4,188	4,144
その他の固定資産	811	589	639	881	882
流動資産	3,245	3,781	4,243	4,077	4,003
現金預金	2,676	3,014	3,724	3,535	3,449
その他の流動資産	569	767	520	542	554
資産の部合計	28,217	28,705	28,457	28,049	27,269
固定負債	5,287	5,002	4,847	4,654	4,362
長期借入金	2,431	2,254	2,076	1,897	1,720
退職給与引当金	2,527	2,409	2,451	2,419	2,311
その他の固定負債	329	339	319	337	330
流動負債	1,692	1,773	1,810	1,692	1,593
短期借入金	178	178	178	179	178
前受金	994	956	962	896	783
その他の流動負債	520	639	671	618	632
負債の部合計	6,979	6,775	6,657	6,346	5,954
基本金	30,176	31,181	31,041	31,473	31,756
第1号基本金	29,111	30,116	29,976	30,408	30,691
第3号基本金	423	423	423	423	423
第4号基本金	642	642	642	642	642
繰越収支差額	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442
翌年度繰越収支差額	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442
純資産の部合計	21,238	21,930	21,800	21,703	21,315
負債及び純資産の部合計	28,217	28,705	28,457	28,049	27,269

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	-39.2	-32.8	-20.8	-18.2	-12.6
流動比率	流動資産 流動負債	191.7	213.2	234.3	240.9	251.3
総負債比率	総負債 総資産	(241.6)	(249.7)	(260.2)	(263.8)	
前受金保有率	現金預金 前受金	24.7	23.6	23.3	22.6	21.8
積立率	運用資産 要積立額	(14.4)	(14.4)	(14.2)	(14.0)	
		269.1	315.2	387.2	394.7	440.6
		(374.2)	(390.0)	(416.6)	(424.2)	
		49.9	49.3	52.9	49.6	46.9
		(71.9)	(72.0)	(73.1)	(73.4)	

※()の比率:令和5年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

（２）資金収支計算書

ア）資金収支計算書の状況と経年比較

前年度繰越支払資金を除いた資金収入は、2019年度93億8400万円から2023年度88億2400万円に、5億6000万円減少しました。学生生徒等納付金収入は、2021年度において60億円台に回復はしましたが、2022年度には再び60億円を下回る結果となりました。減少基調にあることに変わりはありません。

翌年度繰越支払資金を除いた資金支出は、2019年度102億3200万円から2023年度89億1000万円に、13億2100万円減少しました。施設関係支出が13億5600万円から8600万円と、12億7000万円減少したことが大きな要因です。

翌年度繰越支払資金は、2019年度26億7600万円、2020年度30億1400万円、2021年度37億2400万円、2022年度35億3500万円、2023年度34億4900万円であり、音楽部門仙川キャンパス整備のための工事費負担で減少した2019年度を除けば、それほど大きな変化は見られません。

（単位：百万円）

科 目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収 入	学生生徒等納付金収入	6,054	5,933	6,009	5,967	5,845
	手数料収入	101	96	99	103	98
	寄付金収入	99	891	69	54	81
	補助金収入	1,917	1,992	1,908	1,908	1,897
	国庫補助金収入	247	356	207	161	149
	地方公共団体補助金収入	1,671	1,636	1,701	1,747	1,749
	資産売却収入	0	200	350	0	0
	付随事業・収益事業収入	2	0	11	5	7
	受取利息・配当金収入	21	18	17	25	19
	雑収入	273	269	224	287	321
	借入金等収入	66	62	66	86	73
	前受金収入	994	956	962	896	783
	その他の収入	1,342	1,057	1,188	1,040	1,085
	資金収入調整勘定	△ 1,486	△ 1,659	△ 1,409	△ 1,443	△ 1,383
	計 ①	9,384	9,816	9,494	8,928	8,824
前年度繰越支払資金		3,523	2,676	3,014	3,724	3,535
収入の部合計		12,907	12,491	12,507	12,651	12,360
支 出	人件費支出	5,631	5,682	5,582	5,726	5,779
	教育研究経費支出	1,611	1,786	1,618	1,663	1,739
	管理経費支出	364	374	373	354	396
	借入金等利息支出	13	12	11	10	10
	借入金等返済支出	275	251	239	264	244
	施設関係支出	1,356	708	71	136	86
	設備関係支出	160	226	119	133	97
	資産運用支出	446	125	323	340	158
	その他の支出	549	481	643	655	596
	資金支出調整勘定	△ 174	△ 168	△ 195	△ 165	△ 195
	計 ②	10,232	9,477	8,784	9,116	8,910
当年度収支差額（①－②）		△ 847	338	710	△ 189	△ 86
翌年度繰越支払資金		2,676	3,014	3,724	3,535	3,449
支出の部合計		12,907	12,491	12,507	12,651	12,360

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収入は、83億4800万円、81億7900万円と減少を続けてきました。2021年度に82億7200万円、2022年度に82億5200万円と少し好転しましたが、2023年度は2020年度並となりました。教育活動資金支出は、75億8300万円、78億100万円、75億7100万円、77億4000万円と推移し、2023年度は78億8000万円と増加しました。人件費支出と教育研究経費支出で併せて1億2900万円増えたことが主な要因です。学生生徒等納付金収入の減少もあって、2023年度の教育活動資金収支差額は、1億7100万円にまで落ち込みました。

施設整備等活動による資金収支差額は、11億5600万円、1億4200万円と、いずれも支出超過となりましたが、2021年度は1億2100万円の収入超過となり、2022年度は2億4300万円、2023年度は1億9400万円の支出超過となりました。2021年度の収入超過は、調布キャンパス2号館の売却が影響しています。

その他の活動においては、2022年度のような積極的な資金の移動もなく、2023年度は6300万円の支出超過に止まりました。

以上、2023年度の支払資金は2022年度と比べ8600万円の減となっています。

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,348	8,179	8,272	8,252	8,146
教育活動資金支出計	7,583	7,801	7,571	7,740	7,880
差引	765	378	701	512	265
調整勘定等	△ 36	△ 119	84	△ 130	△ 94
A 教育活動資金収支差額	729	259	785	381	171
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	528	983	348	77	139
施設整備等活動資金支出計	1,617	1,040	390	320	333
差引	△ 1,089	△ 57	△ 42	△ 242	△ 194
調整勘定等	△ 67	△ 85	163	△ 0	△ 0
B 施設整備等活動資金収支差額	△ 1,156	△ 142	121	△ 243	△ 194
小計(A+B)	△ 427	118	906	139	△ 23
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	630	839	659	697	660
その他の活動資金支出計	1,053	619	858	1,024	721
差引	△ 422	220	△ 198	△ 328	△ 61
調整勘定等	2	1	2	0	△ 1
C その他の活動資金収支差額	△ 420	220	△ 197	△ 327	△ 63
支払資金の増減額(小計+C)	△ 847	338	710	△ 189	△ 86
前年度繰越支払資金	3,523	2,676	3,014	3,724	3,535
翌年度繰越支払資金	2,676	3,014	3,724	3,535	3,449

ウ) 財務比率の経年比較

教育活動	教育活動資金収支差額	8.73	3.17	9.48	4.61	2.10
資金収支差額比率	教育活動収入	(12.0)	(13.0)	(14.6)	(12.0)	

※()の比率:令和5年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

(3) 事業活動収支計算書

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収入の合計は、2019年度82億9100万円から2023年度79億4200万円に減少しています。学生生徒等納付金は毎年減少を続けており、2021年度に60億円台に回復しましたが、2022年度は再び59億円台となり、2023年度は58億円台となりました。一方、経常費等補助金は18億円台で安定的に推移しています。教育活動支出の合計は、2019年度の82億7900万円から2023年度83億9200万円に1億1300万円増加しています。学生生徒等納付金の減少と相俟って、2023年度の教育活動収支差額は4億5000万円の支出超過となりました。経常収支差額も4億1900万円の支出超過となっています。

基本金組入前当年度収支差額は、2019年度1500万円、2020年度6億9200万円と収入超過が続きましたが、2021年度以降は支出超過が続き、2023年度は3億8800万円の支出超過となっています。

(単位：百万円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動収入	6,054	5,933	6,009	5,967	5,845
学生生徒等納付金	101	96	99	103	98
手数料	98	85	68	54	81
寄付金	1,820	1,816	1,861	1,838	1,819
経常費等補助金	3	△ 15	10	7	7
付随事業収入	214	100	153	217	91
雑収入	8,291	8,015	8,199	8,186	7,942
収入計	8,291	8,015	8,199	8,186	7,942
教育活動支出	5,579	5,400	5,553	5,625	5,467
人件費	2,287	2,480	2,463	2,405	2,486
教育研究経費	676	694	845	742	747
うち減価償却額	413	411	478	427	439
管理経費	72	78	107	76	77
うち減価償却額	1	3	3	1	0
徴収不能額等	8,279	8,294	8,497	8,458	8,392
支出計	8,279	8,294	8,497	8,458	8,392
収支差額	11	△ 279	△ 298	△ 272	△ 450
教育活動外収入	19	16	14	22	16
受取利息・配当金	0	0	0	0	25
その他の教育活動外収入	19	16	14	22	41
収入計	19	16	14	22	41
教育活動外支出	13	12	11	10	10
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	13	12	11	10	10
支出計	13	12	11	10	10
収支差額	6	4	3	12	32
経常収支差額	17	△ 276	△ 295	△ 260	△ 419
特別収入	0	20	131	0	0
資産売却差額	103	990	52	180	83
その他の特別収入	104	1,010	184	180	83
収入計	104	1,010	184	180	83
特別支出	83	16	16	14	18
資産処分差額	23	26	2	3	34
その他の特別支出	105	42	18	18	52
支出計	105	42	18	18	52
収支差額	△ 2	968	165	162	31
基本金組入前当年度収支差額	15	692	△ 130	△ 98	△ 388
(事業活動収支差額比率)	(0.18%)	(7.64%)	(△1.55%)	(△1.16%)	(△4.81%)
基本金組入額合計	△ 1,589	△ 1,006	△ 260	△ 432	△ 283
当年度収支差額	△ 1,574	△ 314	△ 390	△ 529	△ 671
前年度繰越収支差額	△ 7,444	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771
基本金取崩額	81	0	400	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 8,937	△ 9,251	△ 9,241	△ 9,771	△ 10,442
(参考)					
事業活動収入計	8,413	9,056	8,397	8,388	8,066
事業活動支出計	8,398	8,364	8,527	8,486	8,453

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率	人件費	67.1	67.2	67.6	68.5	68.4
	経常収入	(48.7)	(47.5)	(46.3)	(46.1)	
教育研究経費比率	教育研究経費	27.5	30.8	29.9	29.3	31.1
	経常収入	(40.4)	(40.8)	(40.4)	(42.2)	
管理経費比率	管理経費	4.9	5.1	5.8	5.2	5.4
	経常収入	(7.0)	(6.4)	(6.4)	(6.7)	
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	0.1	7.6	-1.5	-1.1	-4.8
	事業活動収入	(3.8)	(5.5)	(7.2)	(5.0)	
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	72.8	73.8	73.1	72.6	73.2
	経常収入	(51.0)	(50.3)	(48.7)	(48.7)	
経常収支差額比率	経常収支差額	0.2	-3.4	-3.5	-3.1	-5.2
	経常収入	(3.6)	(5.0)	(6.6)	(4.7)	

※()の比率:令和5年度版『今日の私学財政 大学・短期大学編』所収の大学法人5ヵ年連続財務比率表より

2 主な収入の推移

(1) 学生生徒等納付金収入

学生生徒等の総数は、法人全体としては、依然としてコロナ禍前の水準に回復できていない状況です。男子部門では中学が21名減、女子部門では短大で10名、高校普通科で15名、前年度から減少しました。また音楽部門では大学で20名減となりました。

(単位：人、千円)

部 門	年 度	学生生徒等数					学生生徒等納付金収入				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
男子部門	桐朋高等学校	961	965	955	946	949	667,402	670,569	652,999	650,626	664,159
	桐朋中学校	788	797	802	808	787	625,739	631,689	633,079	640,049	620,840
	桐朋学園小学校	432	429	428	429	427	312,955	312,778	309,251	310,923	312,869
	計	2,181	2,191	2,185	2,183	2,163	1,606,096	1,615,037	1,595,328	1,601,599	1,597,868
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	322	316	298	294	284	451,965	449,161	419,888	425,903	399,982
	桐朋女子高等学校（普通科）	553	513	490	500	485	359,444	356,541	331,868	341,065	338,369
	桐朋女子中学校	490	465	488	484	477	384,650	391,378	403,053	394,333	391,931
	桐朋小学校	432	433	433	432	431	367,289	377,004	377,419	375,325	376,719
	桐朋幼稚園	78	77	77	78	78	65,673	67,183	68,032	68,427	68,642
	計	1,875	1,804	1,786	1,788	1,755	1,629,021	1,641,267	1,600,259	1,605,052	1,575,643
音楽部門	桐朋学園大学院大学	20	19	19	16	10	19,700	18,000	17,600	15,900	9,900
	桐朋学園大学大学院	103	120	129	137	128	160,184	192,959	203,993	211,651	194,887
	桐朋学園大学音楽学部	682	665	673	636	616	1,593,319	1,553,352	1,577,906	1,506,549	1,471,195
	桐朋女子高等学校（音楽科）	157	164	160	165	159	220,435	238,273	224,170	234,696	213,754
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	2,154	1,981	1,997	2,036	2,100	783,812	641,983	749,663	748,881	743,796
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	64	64	62	61	60	41,820	31,928	39,794	42,563	38,097
	計	3,180	3,013	3,040	3,051	3,073	2,819,270	2,676,495	2,813,125	2,760,239	2,671,629
法人合計		7,236	7,008	7,011	7,022	6,991	6,054,386	5,932,798	6,008,713	5,966,890	5,845,140

※ 学生生徒数は各年度5月1日現在である(但し、子供のための音楽教室は3月31日現在)。

(2) 入学検定料収入

志願者は、男子部門では中学・高校が2022年度から増加し、それぞれ499名、1,082名となりました。男子部門全体では前年度の水準を維持しています。女子部門においても、中学・高校がそれぞれ14名、44名の増となりました。他方、音楽部門は大学が38名減少し、131名となりました。

(単位：人、千円)

部 門	年 度	志願者数（内部進学者を含む）					入学検定料収入				
		2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2023年度 入学者	2024年度 入学者	2020年度 入学者	2021年度 入学者	2022年度 入学者	2023年度 入学者	2024年度 入学者
男子部門	桐朋高等学校	505	472	497	481	499	6,150	5,400	6,000	5,450	6,275
	桐朋中学校	1,153	1,154	899	1,044	1,082	26,030	25,008	20,267	23,400	24,388
	桐朋学園小学校	602	602	684	708	646	15,300	15,150	17,200	18,325	16,600
	計	2,260	2,228	2,080	2,233	2,227	47,480	45,558	43,467	47,175	47,263
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	174	103	121	98	82	6,175	4,425	4,695	3,800	3,305
	桐朋女子高等学校（普通科）	199	175	205	190	204	1,196	1,127	1,564	1,357	1,334
	桐朋女子中学校	385	376	405	369	413	7,210	7,125	7,365	6,869	7,600
	桐朋小学校	412	442	526	614	544	10,550	11,925	13,600	15,450	14,875
	桐朋幼稚園	73	69	57	63	52	1,460	1,400	1,320	1,340	1,280
	計	1,243	1,165	1,314	1,334	1,295	26,591	26,002	28,544	28,816	28,394
音楽部門	桐朋学園大学院大学	14	17	14	8	7	360	490	400	241	240
	桐朋学園大学大学院音楽研究科	73	62	85	67	64	2,190	1,860	2,550	2,131	1,920
	桐朋学園大学音楽学部	187	182	165	169	131	10,478	10,050	10,868	11,701	8,378
	桐朋女子高等学校（音楽科）	67	51	60	59	52	3,518	2,678	3,150	3,258	2,783
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	—	—	—	—	—	2,844	2,492	2,536	4,870	2,339
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	135	142	145	146	133	2,228	2,343	2,393	2,437	2,195
	計	476	454	469	449	387	21,617	19,912	21,896	24,636	17,853
法人合計		3,979	3,847	3,863	4,016	3,909	95,688	91,472	93,907	100,627	93,510

※ 志願者数は、転編入を除き、内部進学を含む

(3) 補助金収入

ア) 補助金部門別交付額の推移

本法人に対する補助金総額は、2019年度19億1700万円、2020年度19億9200万円、2021年度と2022年度19億800万円、2023年度18億9700万円と、年度による増減はあるものの、安定的に推移しています。

男子部門への補助金は、7億5600万円、7億4800万円、7億7200万円、8億1200万円と推移し、2023年度は8億2400万円に、2022年度から1200万円増加しました。

女子部門への補助金は、7億600万円、6億8800万円、7億400万円、7億円と推移し、2023年度は6億8400万円に、2022年度から1億6000万円減少しました。

音楽部門への補助金は、4億5500万円、5億5600万円、4億3200万円、3億9600万円と推移し、2023年度は3億9000万円に、2022年度から600万円減少しました。音楽部門の2020年度の補助金には、仙川キャンパス第二期工事に対する補助金1億6100万円が含まれています。

(単位：千円)

部門・学校\年度		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
男子部門	桐朋高等学校	404,992	396,386	412,594	428,153	437,096
	桐朋中学校	234,596	233,071	237,322	258,634	252,589
	桐朋学園小学校	116,155	118,393	122,218	125,673	134,422
	計	755,743	747,850	772,134	812,460	824,107
女子部門	桐朋学園芸術短期大学	55,604	72,555	64,395	53,969	50,279
	桐朋女子高等学校（普通科）	349,146	325,883	338,059	339,095	328,972
	桐朋女子中学校	180,848	172,445	185,135	185,485	177,145
	桐朋小学校	110,052	104,210	102,210	107,798	112,069
	桐朋幼稚園	10,842	12,680	13,973	13,769	15,268
	計	706,492	687,774	703,772	700,115	683,733
音楽部門	桐朋学園大学院大学	115,749	130,382	126,332	126,555	111,920
	桐朋学園大学大学院	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学音楽学部	158,635	266,166	128,543	94,759	97,701
	桐朋女子高等学校（音楽科）	71,091	71,365	76,055	75,033	76,721
	桐朋学園大学音楽学部附属 子供のための音楽教室	0	0	0	0	0
	桐朋学園大学院大学・桐朋学園大学 音楽学部附属桐朋オーケストラ・アカデミー	109,505	88,319	100,995	99,299	103,080
計		454,981	556,232	431,926	395,646	389,422
法人合計		1,917,216	1,991,855	1,907,832	1,908,221	1,897,262

イ) 補助金種類別交付額の推移

私立大学等経常費補助金は、2019年度以降1億7700万円、1億6000万円、1億6700万円、1億1800万円と推移してきましたが、2023年度に9900万となり、2022年度と比べて1900万円の減少となりました。大学院大学に対する不交付が影響しています。その他施設設備に係る補助金は600万円増加しました。2020年度の1億9600万円は、仙川キャンパス第二期工事に対する「サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補助金」によるものです。

東京都の経常費補助金は、2019年度13億4700万円、2020年度13億3300万円、2021年度13億4800万円、2022年度13億5300万円と推移し、2023年度は13億8400万円でした。在籍する児童・生徒数、教職員数及び評価係数の影響を受けるため年度による増減はありますが、13億円台で安定的に推移しています。

(単位：千円)

補助金の種類\年度			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国庫補助金	経私立 常立 費大 補学 助等 金	一般補助	161,223	155,800	162,564	116,179	97,156
		特別補助	15,370	4,136	4,310	1,938	2,072
	計		176,593	159,936	166,874	118,117	99,228
	その他（施設設備補助金等）		70,086	196,410	39,631	43,052	49,392
	計		246,679	356,346	206,505	161,169	148,620
地方公共団体補助金	経東京 常費都 補助金	一般補助	1,289,176	1,278,316	1,288,124	1,297,174	1,329,105
		特別補助	58,171	54,444	59,551	55,508	54,897
		計	1,347,347	1,332,760	1,347,675	1,352,682	1,384,003
	私立高等学校授業料軽減補助金		76,168	67,738	80,617	77,250	64,882
	結核予防費都費補助金		269	273	261	263	265
	私立高等学校都内生就学促進補助金		1,731	2,010	1,617	1,805	2,029
	富山市補助金		214,000	205,746	215,000	215,000	215,000
	その他（施設設備補助金等）		31,022	26,983	56,156	100,052	82,463
	計		1,670,537	1,635,510	1,701,326	1,747,052	1,748,642
	法人合計		1,917,216	1,991,855	1,907,831	1,908,221	1,897,262

3 その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
債券	国債	1口	64,767	57,947	特定資産(江戸奨学特定資産)
債券	国債	1口	12,347	12,639	有価証券(生江義男先生記念教育研究基金)
債券	国債	1口	30,847	31,597	うち11,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	102,458	107,314	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	103,622	108,682	うち100,000千円は第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	21,550	22,977	有価証券
債券	国債	1口	49,950	51,990	有価証券
債券	国債	1口	205,073	214,620	第3号基本金引当特定資産
債券	国債	1口	20,388	20,810	有価証券
債券	国債	1口	49,545	40,450	有価証券
債券	名古屋市公債	1口	104,022	106,980	有価証券
債券	大阪市公債	1口	102,170	104,130	有価証券
株式	調布エフエム放送(株)	10口	201		有価証券
株式	新日本製鐵(株)	1650口	896		有価証券
株式	東京電力(株)	3897口	811		有価証券
出資証券	多摩中央信用金庫	2000口	100		有価証券
		計	868,747	880,137	

(2) 借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	1,055,450	0.50%	2033年3月～2034年3月	校地
日本私立学校振興・共済事業団	841,920	0.50% 0.38%	2035年9月～2036年9月	校地
計	1,897,370			

(3) 学校債の状況

(単位：千円)

発行年度	本年度末残高	利率	償還期限	摘要
2018年度	72,500	0.00%	2025年3月	
2019年度	64,400	0.00%	2026年3月	
2020年度	73,000	0.00%	2027年3月	
2021年度	61,000	0.00%	2028年3月	
2022年度	77,700	0.00%	2029年3月	
2023年度	52,000	0.00%	2030年3月	
計	400,600			

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

種類	寄付者	金額	摘要
桐朋奨学会基金への寄付	新入生保護者	3,720	207口
緑と文化の基金への寄付	太田千秋氏、76期卒業生	2,200	
奨学会への寄付	小学校新入生保護者、短大保証人	1,434	78口
生徒特別教育活動基金への寄付	中高新入生保護者	795	48口
帰国子女教育活動基金への寄付	中高帰国生(新入生)保護者	160	4口
一般寄付	薄井紀子様・苅谷天麻様他6名の方々	1,136	
一般寄付	卒業生、在学生保護者他	33,416	454口
一般寄付	—	2,163	84口
宗次徳二桐朋学園大学大学院特待奨学金寄付金	(特非)イエロー・エンジェル理事長 宗次徳二様	7,200	1,200千円×6名
桐朋学園音楽部門留学支援奨学金「江崎スカラシップ」寄付金	江崎正道様	28,300	5,000千円×4名他
桐朋学園仙川新校舎楽器・設備募金寄付金	—	3	1口
若手音楽家支援プロジェクト寄付金	—	150	25口
現物寄付(教育研究用機器備品：グランドピアノ)	—	0	1点
現物寄付(図書)	桐朋中学・高等学校PTA他	1,908	
現物寄付(大時計、プロジェクター、図書)	小6卒業記念他	1,184	
現物寄付(図書)		1,134	
		計	84,902

（５）関連当事者との取引の状況

(単位:千円)

役員・法人等名称	資本金又は出資金	取引の内容	取引金額
理事 鈴木 正義	—	本法人の東京都私学財団からの借入金債務（入学支度金）に対する連帯保証人である。なお、保証料の支払いはない。	200
理事 原口 大助	—	住宅資金貸付規程及び特別資金貸付内規に基づき、男子部門より資金を借り受けている。	2,000

４ 経営上の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応

（１）男子部門

2023年５月に新型コロナウイルス感染症が５類移行となり、対応策には一応の区切りをつけた。宿泊行事などに必要な感染症対策は残した上で、学校生活はほぼ完全に以前の状態に復したと言える。宿泊行事は小中高において本来のスタイルで実施でき、桐朋祭（文化祭）では飲食を扱う参加団体が復活した。児童・生徒の晴れやかな笑顔を目にするたびに、学校を持つ意義を実感し、果たすべき責務を再認識した。今後は言い訳の許されない学校運営が望まれると考える。

安定した受験応募者を確保するために学校説明会には力を入れてきた。結果は、小学校での減が目立つ。他校の動向を注視しつつ、原因の究明とその克服が必要である。中学では１回目で若干名減らしたものの、１回目、２回目の合計で38名の増、高校入試では、34名の増であった。なお、今年度より東京都による私立高校の授業料実質無償化が打ち出されたが、今回の応募者増に影響があったかどうかは見定めがたい。今後も注視していく必要があるだろう。

本校の魅力を十全に伝えるため、広報活動には力を入れてきた。2024年４月より中学・高校の学校ホームページを刷新し、今まで以上に生徒諸君の活躍を魅力的に紹介する工夫も凝らした。このような地道な努力も続けていきたい。

教学の面では、2024年度は高校の新学習指導要領の完成年度にあたり、本校のカリキュラムが生徒の学力保障、人間的成長に資するものになっていたかどうか、さらには大学入試実績にどう反映されるのかの検証が始まる。これこそが私たちの職務の生命線であり、学園の飛躍のために、しっかりと評価・分析を行っていきたい。

財務面では財政収支の健全・安定を目指し、2024年度より学生生徒納付金等の改定を行った。入学者に対して、入学金３万円の増、また建設資金は廃止し、その代替として従来の施設拡充費を施設維持費と改称した上で月額1,350円の増とした。このため、今後５年間は建設資金相当分の回収が遅れるため収入が減ることになる。また、児童・生徒諸費は光熱費等の高騰を受け、月額1,000円の増とした。保護者には丁寧に説明をし、ご理解をいただいている。

一方、少子化対策のひとつとして2025年度より桐朋学園小学校のクラス定員数を36名から34名に減らすことを決定した。今年度中に学費を決めるが、教育環境の改善を訴えつつ、昨今の物価高、他校の学費値上げの様子などにも注意を払い、応募者が減ることのないように学費を決定することになる。

施設面では、2023年度は中高体育館の空調設置のために支出増が目立ったが、実際には半額程度の補助金を得られたため財政的には助かった。補助金は年度ごとに内容が変わるため予算編成時に見込むことは難しいが、財政への貢献という点では非常に大きいので、今後とも補助金の情報にはアンテナを張っていきたい。

今後の案件としては、財務の安定した見通しを持つことがある。2023年度より次期校舎建築の積立を始めたほか、ICT環境の整備・促進、物価の上昇による施設・諸経費の増、さらには教職員の人件費増も見込まれる。また、優秀な教職員を確保するための賃金体系の確立も必要だろう。

職場の働きやすい環境作りという点では、教職員の過重な仕事量、または仕事の偏向にも是正が急務である。また必ずしも100%の力で仕事に取り組めない方を支援する体制も整えなければならない。職場環境の良し悪しは賃金水準だけで決まるものではない。広く福利厚生概念を取り入れたトータルで働きやすい環境を整えることで、結局は人が集まる職場になるのだろう。これらの課題を高得点でクリアすることは難しい。何とかギリギリ及第点のところで解決していくしかないと思う。難しい舵取りとなろうが、教職員の叡智を結集して事にあたっていききたい。

（２）女子部門

2023年度は、コロナウイルス感染症の法的位置付けが変更され、ほぼ通常の教育活動が再開された年であった。これにより、校外活動が増加し、教員の引率も多くなり、関連する支出——校外活動引率費、旅費交通費等——も増えた。さらに、研究研修の機会が増えたことで、研修研究費も増加した。

校舎改修計画については、改修費用を考慮し、2024年3月に全面改修から部分改修に方針を変更した。また、短大地下の学生食堂の移設に際し、新たに厨房を伴う食堂の設置は行わないことに決定された。この食堂の移設は、短大の将来構想に基づいて食堂を2つの実習室に改修するためのものである。校舎建築計画の検討開始から既に4年が経過しており、今後、建築資材費や人件費の増加が予想されるため、計画を迅速に進行させる必要がある。

2022年度に発生した屋内プールの天井パネルの一部落下問題に関して、改修期間中はプールが使用不可となる。そのため、2024年度の冬季に改修を行う計画である。現在は一時的な措置として天井下にネットを設置し、生徒の安全を確保しながら教育活動を継続している。

学納金収入は、2022年度と比較して生徒・学生の総数が減少し、結果として約3千万円の減収となった。しかし、中高では2024年度の新入生が40名近く増えた。この傾向の原因を分析し、今後の生徒確保に活かす計画である。短大では、コロナ禍の影響が依然として残り、入学者数が減少している。短大の将来構想の実現に向けて、学生確保の取り組みを強化する必要がある。また、諸物価の上昇や最低賃金の引き上げに伴う人件費増加などの社会的要因を踏まえ、小中高短大で2024年度の学費を改定した。一方、幼稚園では保育料が周辺の園と比べて高い水準にあること、対象となる園児の数が減少していることを理由に学費の改定を行わなかった。

2023年8月1日には、それまで保有していたドル建て預金を円転換した。このプレミアム円定期預金は為替相場の変動により外貨に転換される特性を持つ商品で、元本が4億円を下回るリスクがあったが、総合的に見て損失を回避するタイミングで円転換を行った。法人の経理規程に基づき、今後は元本が保証されている安全な資金運用を徹底する。

日本社会の変化の中で、教職員の雇用制度や学校規模の調整など、中長期的な視点で取り組むべき課題を明確にしていくことが重要である。

（３）音楽部門

2023年度決算における音楽部門の単年度収入3,214,416千円のうち、学生生徒等納付金収入は2,671,629千円であり、収入全体の8割弱を占めている。そのうち、最も比率が高いのは大学学部の学生納付金1,347,417千円（校納金のうちおよそ5割）であるが、その次は音楽教室の生徒からの納付金743,796千円（校納金のうちおよそ3割）である。

各学校別 学生生徒等納付金

（単位：円）

	2023年度	2022年度
1. 大学学部	1,347,417,751	1,393,655,002
2. 大学院	194,887,251	211,651,002
3. 高校	213,754,014	234,696,446
4. CD、SD、研究生	123,777,500	112,893,750
5. 音楽教室	743,796,278	748,880,554
6. 大学院大学	9,900,000	15,900,000
7. オーケストラ・アカデミー	38,096,666	42,562,667

その収入源の大きな部分が、2022年度に比べて減じてしまったことは、経営上、大きな問題であると認識している。

現在、大学学部の入学者定員は180名であるが、このままのペースで新入生数が減っていけば、定員充足率をさらに悪化させてしまい、その数字によっては修学支援金や国庫補助金に関して、大きな問題となってしまう恐れがある。受験生確保のための活動をさらに強化するだけでなく、入学者定員数、入学者選抜方法の見直しを進める。また、従来53名という数字で考えてきた専任教員数の見直し検討が必要になろう。

高校・学部の学生生徒数のうち、ボリュームゾーンと言えるのは、ピアノと弦楽器の学生生徒である。その専攻に関して、桐朋の教育力、桐朋の魅力を直に伝えられるように、特別な講習会を開催するなど、受験生に繋がるような広報活動に注力する。

入学者定員に関しては180名を130名にするための議論を進めている。入学者選抜の方法についても、総合型の選抜を増やすなどの対策を打って、新入生を確保し、定員充足率の改善をはかる。

支出の抑制に関しては、その大きな部分である教職員の人件費に関して、学生生徒数に見合った専任教職員数の検討が必要であろう。これまでは専任教員集を「53名」にするという目標を立ててきたが、数年後に合計で10名近くの定年退職者となる二ヶ年があり、その後の専任教員数を担当教科のバランスを見ながら、検討を進める。